

【養成する人材像】

- ①地域ならびに医療機関で自立し、医療・福祉への生活支援ネットワークの要の専門職である看護職人材を養成する
- ②社会、地域を取り巻くさまざまな課題に看護専門職として主体的に取り組み問題・課題解決を通じて、地域の医療・福祉に貢献する看護人材を養成する
- ③総合的な調整能力とリーダーシップ能力とコミュニケーション能力を備えた看護専門職者、看護管理者、看護研究者・看護教育者の人材を育成する

【ディプロマポリシー】

- ①看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力
- ②専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力
- ③高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力
- ④ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力
- ⑤看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力

【カリキュラムポリシー】

- ①我が国と地域の医療の発展と国民の健康と福祉に貢献しうる高度で質の高い看護を実践できる能力を携えた看護実践者を育成するために「共通科目」と「専門教育科目」を設定し「専門教育科目」はさらに「基盤看護学」「広域看護学」に細分し各看護領域の特論(主に講義)と演習を通して看護学を広く、深く学ぶ。
- ②理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムとする。
- ③健康課題を見出し、科学的根拠をもとに実践する能力を養うため、生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を身につける。
- ④人材育成の基盤となる保健・医療・福祉分野における諸課題や健康支援のあり方への理解を深め、リーダーシップ能力の醸成とともに論理的思考力を各科目の学修を通して培う。
- ⑤看護の対象を適切に理解し、その主体性を尊重した効果的で効率的な看護サービスを提供するための知識・観察力・判断力・コミュニケーション能力・応用能力を各科目の学修を通して培う。
- ⑥看護の質の向上に貢献するためのエビデンスに基づいた看護研究を推進する能力を身につけるため「特別研究」を置く。
- ⑦学修成果の評価については、シラバスにおいて授業科目ごとの到達目標および成績評価基準を明示したうえで、レポートや発表内容、ディスカッション内容、授業態度により総合的に行う。

設置の趣旨における教育上の目的、育成する能力、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの関連図

【教育上の目的】

地域の保健・医療・福祉および市川市を中心とする千葉県東葛南部地域において、地域ならびに医療機関で自立し、保健・医療・福祉への生活支援ネットワークの要の専門職である看護職人材を養成することを目的とする。

そして、社会、地域を取り巻くさまざまな課題に看護専門職として主体的に取り組み、問題・課題解決を通じて、地域の保健・医療・福祉に貢献する看護人材を養成するとともに、総合的な調整能力とリーダーシップとコミュニケーション力を備えた看護専門職者、看護管理者、看護研究者・看護教育者の人材を育成する。

【育成する能力】

- ①看護職としての高度かつ幅広い専門性を備え、自らが関わる組織あるいはコミュニティにおける課題解決のための方略を探求することができる能力
- ②時代のニーズに応えるため広い視野を磨き、妊娠・出生・乳幼児期から老年期までのライフコースに寄り添ってケアの対象者に支援し、課題を解決できる能力
- ③地域包括ケアシステムおよび産業看護・公衆衛生において、心身両面からの健康維持と向上を支援し、専門職間連携に関する視点を看護学に応用した研究課題に取り組む能力
- ④組織やチームにおいて統括する能力を備え、組織の将来を見据え創造的に提言できる高いマネジメント能力および倫理的実践能力

【カリキュラムポリシー】

- ①我が国と地域の医療の発展と国民の健康と福祉に貢献しうる高度で質の高い看護を実践できる能力を携えた看護実践者を育成するために「共通科目」と「専門教育科目」を設定し「専門教育科目」はさらに「基盤看護学」「広域看護学」に細分し各看護領域の特論(主に講義)と演習を通して看護学を広く、深く学ぶ
- ②理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムとする。
- ③健康課題を見出し、科学的根拠をもとに実践する能力を養うため、生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を身につける。
- ④人材育成の基盤となる保健・医療・福祉分野における諸課題や健康支援のあり方への理解を深め、論理的思考を高めるための科目群を設ける。
- ⑤看護の対象を適切に理解し、その主体を尊重した効果的で効率的な看護サービスを提供するための高度な知識・観察力・判断力・応用能力を高めるための専門科目群を設ける。
- ⑥看護の質の向上に貢献するためのエビデンスに基づいた看護研究を推進する能力を身につけるため、「特別研究」を置く。
- ⑦学修成果の評価については、シラバスにおいて授業科目ごとの到達目標および成績評価基準を明示したうえで、レポートや発表内容、ディスカッション内容、授業態度により総合的に行う。

【ディプロマポリシー】

- ①看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力
- ②専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力
- ③高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力
- ④ケアの対象者および多職種の持つ、多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力
- ⑤看護の質改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力

看護学研究科 看護学専攻 カリキュラム(科目)と3ポリシーとの関連表

<p>アドミッション・ポリシー(AP) (入学受け入れの方針)</p>	<p>本学看護学研究科では、本学の理念を理解し、看護学および看護実践に強い関心と探求心を持ち研究課題に主体的に取り組み、地域社会における保健・医療・福祉と看護学の発展に寄与したいという意欲を持つ学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学分野に関する基本的な知識・技術・態度を有し、看護学および看護実践に関し強い関心と問題意識を持っている人。 2. より深い探求心を持ち研究課題に主体的に取り組める能力を有する人。 3. 地域社会における保健・医療・福祉と看護学の発展に寄与したいという意欲を持ち、自己の考えを的確に表現するとともに他者からも学ぶ多面的で論理的な思考ができる人。 4. 看護職としての将来の展望を持ち、看護実践者、看護管理者、看護研究者、看護教育者としてキャリアを重ねたいという意欲のある人。 							
<p>カリキュラム・ポリシー(CP) (教育課程編成の方針)</p>	<p>本学の看護学研究科では、学位授与方針であるディプロマポリシーを達成するために、教育課程の編成および教育内容、教育方法、教育評価の視点から、教育課程編成実施方針(カリキュラムポリシー)を下記のように定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国と地域の医療の発展と国民の健康と福祉に貢献しうる高度で質の高い看護を実践できる能力を携えた看護実践者を育成するために「共通科目」と「専門教育科目」を設定し「専門教育科目」はさらに「基盤看護学」「広域看護学」に細分し各看護領域の特論(主に講義)と演習を通して看護学を広く、深く学ぶ。 2. 理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムとする。 3. 健康課題を見出し、科学的根拠をもとに実践する能力を養うため、生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を身につける。 4. 人材育成の基盤となる保健・医療・福祉分野における諸課題や健康支援のあり方への理解を深め、リーダーシップ能力の醸成とともに論理的思考力を各科目の学修を通して培う。 5. 看護の対象を適切に理解し、その主体性を尊重した効果的で効率的な看護サービスを提供するための知識・観察力・判断力・コミュニケーション能力・応用能力を各科目の学修を通して培う。 6. 看護の質の向上に貢献するためのエビデンスに基づいた看護研究を推進する能力を身につけるため「特別研究」を置く。 7. 学修成果の評価については、シラバスにおいて授業科目ごとの到達目標および成績評価基準を明示したうえで、レポートや発表内容、ディスカッション内容、授業態度により総合的に行う。 							
<p>ディプロマ・ポリシー(DP) (修了要件・学位授与の方針)</p>	<p>地域・社会を取り巻く様々な健康課題に主体的に取り組み、地域・医療・福祉に貢献する看護人材を育成する。高い問題解決能力、倫理観、コミュニケーション能力を備えた看護実践者、看護管理者、看護研究者、看護教育者を育成する。 修了するには必要な単位を修得し、以下の5つの力を身につけた者に「修士(看護学)」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 2. 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 3. 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 4. ケアの対象者および多職種を持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 5. 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。 							
<p>関連評価基準</p>	<p>※「授業科目」が上記3つのポリシーに、<u>「AP」は最大2項目まで、「CP」「DP」は最大3項目までの主たる関連が強い</u>それぞれの「番号」を下記の「AP」「CP」「DP」欄に記入する。</p> <p>(例)「AP」の「1」と「3」、「DP」の「2」から「4」の場合は、「AP」欄に「1・3」、「DP」欄に「2・3・4」と記入する。</p>							
<p>科目区分</p>	<p>授業科目の名称</p>	<p>配当年次</p>	<p>教育課程の概要</p>	<p>必要単位</p>	<p>A P</p>	<p>C P</p>	<p>D P</p>	<p>備考欄</p>
<p>共通科目</p>	<p>研究方法Ⅰ(看護研究基礎) 研究方法Ⅱ(看護研究応用) 看護教育特論 看護倫理学特論 チーム医療特論 公衆衛生学特論 地域包括ケア特論 疫学保健統計学特論 臨床心理学特論 社会福祉学特論 臨床栄養学特論</p>	<p>1前(必修) 1後(必修) 1・2後 1・2後(必修) 1・2後 1・2後 1前 1・2後 1・2前 1・2前 1・2後</p>	<p>「共通科目」 高度な看護を実践する上で基盤となる知識と研究手法をさらに高めることを目的に、人間集団の健康を対象にした分析手法として、疫学・数量分析、質的分析をはじめとする看護研究実行能力を高めるための科目を配置した。さらに、研究対象の生活や行動基盤の理解力を高め、看護保健医療に関わる関連領域および社会制度を体系的に理解するための科目を配置する。 特に看護学研究科の設置の主目的でもある地域包括ケアシステムと多職種連携の概念を理解し、問題解決への基盤的指針を理解するための「地域包括ケア」科目を置き、看護・臨床・公衆衛生の多角的かつ学際的な視点からの理解を深めるための科目を設定した。</p>	<p>必修3科目6単位 選択8科目16単位</p>	<p>1・2 1・2 1・4 1・3 2 1・3 3 1・2 2・3 2・3 1・2</p>	<p>3・4・5 3・4・5 1・2・4 2・3 1・4・5 1・4・5 3・4・5 1・2・3 1・3・5 1・3・5 1・4</p>	<p>1・2・3 1・2・3 3・4・5 3・4 1・2・4 1・4・5 4・5 1・2・3 3・4・5 3・4・5 1・2</p>	
<p>基盤看護学領域</p>	<p>看護管理特論 看護管理演習 小児看護学特論 小児看護学演習 成人看護学特論 成人看護学演習 老年看護学特論 老年看護学演習</p>	<p>1・2前 1後 1・2前 1後 1・2前 1後 1・2前 1後</p>	<p>「基盤看護学領域」 高度な看護の展開に向けた思考の向上や方法論を開発できる能力を身に着けるために、小児・成人・老年のさらに高度な知識・手技を修得した上で、地域連携および多職種連携のための高度な知識と手技を有するリーダーを育成する。 また、マネジメント能力を備える高度看護実践者の育成を主眼とした「看護管理特論・演習」を専門科目に配置した。</p>	<p>8科目16単位</p>	<p>1・4 1・4 1・4 1・4 1・3 1・3 1・4 1・4</p>	<p>3・4・5 1・4・5 3・4・5 1・4・5 3・4・5 1・4・5 3・4・5 1・4・5</p>	<p>1・3・4 1・2・4 1・2・4 1・2・4 1・2・4 1・2・4 3・4・5 2・4・5</p>	
<p>広域看護学領域</p>	<p>健康医療政策学特論 健康医療政策学演習 ウィメンズヘルス看護学特論 ウィメンズヘルス看護学演習 精神看護学特論 精神看護学演習 産業看護学特論 産業看護学演習 地域看護学特論 地域看護学演習</p>	<p>1・2前 1後 1・2前 1後 1・2前 1後 1・2前 1後 1・2前 1後</p>	<p>「広域看護学領域」 臨床・患者のみならず地域住民・労働者の健康維持・増進、女性のライフステージに関わる専門家としての高度実践者を養成する。 母性・精神・産業・地域分野のより高度な知識・手技を習得した上で、看護管理の実践者を育成するために、思考の向上や方法論を開発できる科目を置くとともに、自組織全体の運営・改革への参画、地域等、看護・保健活動が必要とされるフィールドにおいて、地域保健・産業保健、社会福祉のステークホルダーとの連携を図り、政策立案能力を有するリーダーの役割を発揮できる力を有する高度看護実践者の育成を主眼とした「健康医療政策学」を配置した。</p>	<p>10科目20単位</p>	<p>2・3 2・3 1・2 1・2 3・4 1・3 1・3 1・3 1・2</p>	<p>3・4・5 1・4・5 1・4・5 3・4・5 1・4・5 2・4・5 1・4・5 3・4・5 1・4・5</p>	<p>3・4・5 2・4・5 1・4・5 2・4・5 3・4・5 2・4・5 2・4・5 2・3・4 1・2・4</p>	
<p>特別研究科目</p>	<p>特別研究</p>	<p>2通</p>	<p>「特別研究」 看護研究の遂行能力を高めるため、実務経験や職業倫理性を考慮し、指導教員のもとで、「課題研究」に取り組む。看護の今日的課題の性質を鑑み、臨床現場や地域や職域で求められ還元性の高いテーマから、グローバルな視野を育むテーマまで幅広く取り上げ、看護の質の向上に貢献するためのエビデンスに基づいた看護研究を推進する能力を持った専門家を養成する。</p>	<p>8単位</p>	<p>1・2・3・4</p>	<p>1・2・3・4・5・6</p>	<p>1・2・3・4・5</p>	

- ①講義科目・演習科目:2単位90分授業15回
- ②共通科目:講義2単位15回 必修は研究方法Ⅰ・Ⅱ、看護倫理学特論(6単位) 他
- ③特別研究:2年次通年(単位認定)、1年次では演習科目の中で研究テーマ絞り込みなどを指導
- ④CPの「7」については、各科目共通で該当する

看護学研究科 看護学専攻 カリキュラム(科目)と3ポリシーとの関連表

アドミッション・ポリシー(AP) (入学受け入れの方針)		<p>本学看護学研究科では、本学の理念を理解し、看護学および看護実践に強い関心と探求心を持ち研究課題に主体的に取り組み、地域社会における保健・医療・福祉と看護学の発展に寄与したいという意欲を持つ学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学分野に関する基本的な知識・技術・態度を有し、看護学および看護実践に関し強い関心と問題意識を持っている人。 2. より深い探求心を持ち研究課題に主体的に取り組める能力を有する人。 3. 地域社会における保健・医療・福祉と看護学の発展に寄与したいという意欲を持ち、自己の考えを的確に表現するとともに他者からも学ぶ多面的で論理的な思考ができる人。 4. 看護職としての将来の展望を持ち、看護実践者、看護管理者、看護研究者、看護教育者としてキャリアを重ねたいという意欲のある人。 									
カリキュラム・ポリシー(CP) (教育課程編成の方針)		<p>本学の看護学研究科では、学位授与方針であるディプロマポリシーを達成するために、教育課程の編成および教育内容、教育方法、教育評価の視点から、教育課程編成実施方針(カリキュラムポリシー)を下記のように定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国と地域の医療の発展と国民の健康と福祉に貢献しうる高度で質の高い看護を実践できる能力を携えた看護実践者を育成するために「共通科目」と「専門教育科目」を設定し「専門教育科目」はさらに「基盤看護学」「広域看護学」に細分し各看護領域の特論(主に講義)と演習を通して看護学を広く、深く学ぶ。 2. 理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムとする。 3. 健康課題を見出し、科学的根拠をもとに実践する能力を養うため、生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を身につける。 4. 人材育成の基盤となる保健・医療・福祉分野における諸課題や健康支援のあり方への理解を深め、論理的思考を高めるための科目群を設ける。 5. 看護の対象を適切に理解し、その主体性を尊重した効果的で効率的な看護サービスを提供するための高度な知識・観察力・判断力・応用能力を高めるための専門科目群を設ける。 6. 看護の質の向上に貢献するためのエビデンスに基づいた看護研究を推進する能力を身につけるため「特別研究」を置く。 7. 学修成果の評価については、シラバスにおいて授業科目ごとの到達目標および成績評価基準を明示したうえで、レポートや発表内容、ディスカッション内容、授業態度により総合的に行う。 									
ディプロマ・ポリシー(DP) (修了要件・学位授与の方針)		<p>地域・社会を取り巻く様々な健康課題に主体的に取り組み、地域・医療・福祉に貢献する看護人材を育成する。高い問題解決能力、倫理観、コミュニケーション能力を備えた看護実践者、看護管理者、看護研究者、看護教育者を育成する。 修了するには必要な単位を修得し、以下の5つの力を身につけた者に「修士(看護学)」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 2. 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 3. 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 4. ケアの対象者および多職種を持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。 5. 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。 									
関連評価基準		<p>※「授業科目」が上記3つのポリシーに、「AP」は最大2項目まで、「CP」「DP」は最大3項目までの主たる関連が強いそれぞれの「番号」を下記の「AP」「CP」「DP」欄に記入する。</p> <p>(例)「AP」の「1」と「3」、「DP」の「2」から「4」の場合は、「AP」欄に「1・3」、「DP」欄に「2・3・4」と記入する。</p>									
科目区分	授業科目の名称	配当年次	教育課程の概要	必要単位	A P	C P	D P	備考欄			
共通科目	研究方法Ⅰ(看護研究基礎)	1前(必修)	<p>「共通科目」 高度な看護を実践する上で基盤となる知識と研究手法をさらに高めることを目的に、人間集団の健康を対象にした分析手法として、疫学・数量分析、質的分析をはじめとする看護研究実行能力を高めるための科目を配置した。さらに、研究対象の生活や行動基盤の理解力を高め、看護保健医療に関わる関連領域および社会制度を体系的に理解するための科目を配置する。 特に看護学研究科の設置の主目的でもある地域包括ケアシステムと多職種連携の概念を理解し、問題解決への基盤的指針を理解するための「地域包括ケア」科目を置き、看護・臨床・公衆衛生の多角的かつ学際的な視点からの理解を深めるための科目を設定した。</p>	必修2科目4単位 選択9科目18単位	1・2	1・2・3	1・2・3				
	研究方法Ⅱ(看護研究応用)	1後(必修)			1・2	1・2・3	1・2・3				
	看護教育特論	1・2後			1・4	1・2・4	3・4・5				
	看護倫理学特論	1・2後			1・3	2・3	3・4				
	チーム医療特論	1・2後			2	1・2・5	1・2・4				
	公衆衛生学特論	1・2後			1・3	1・2・5	1・2・5				
	地域包括ケア特論	1前			3	3・4・5	4・5				
	疫学保健統計学特論	1・2後			1・2	1・2・3	1・2・3				
	臨床心理学特論	1・2前			2・3	1・3・5	3・4・5				
	社会福祉学特論	1・2前			2・3	1・3・5	3・4・5				
臨床栄養学特論	1・2後	1・2	1・4	1・2							
基盤看護学領域	看護管理特論	1・2前	<p>「基盤看護学領域」 高度な看護の展開に向けた思考の向上や方法論を開発できる能力を身につけるために、小児・成人・老年のさらに高度な知識・手技を修得した上で、地域連携および多職種連携のための高度な知識と手技を有するリーダーを育成する。 また、マネジメント能力を備える高度看護実践家の育成を主眼とした「看護管理特論・演習」を専門科目に配置した。</p>	8科目16単位	1・4	1・4・5	1・3・4				
	看護管理演習	1後			1・4	1・4・5	1・3・4				
	小児看護学特論	1・2前			1・4	1・2・3	1・2・3				
	小児看護学演習	1後			1・4	1・2・3	1・2・3				
	成人看護学特論	1・2前			1・3	3・4・5	1・2・4				
	成人看護学演習	1後			1・3	3・4・5	1・2・4				
	老年看護学特論	1・2前			1・4	3・4・5	3・4・5				
	老年看護学演習	1後			1・4	3・4・5	3・4・5				
	広域看護学領域	健康医療政策学特論			1・2前	<p>「広域看護学領域」 臨床・患者のみならず地域住民・労働者の健康維持・増進、女性のライフステージに関わる専門家としての高度実践者を養成する。 母性・精神・産業・地域分野のより高度な知識・手技を習得した上で、看護管理の実践者を育成するために、思考の向上や方法論を開発できる科目を置くとともに、自組織全体の運営・改革への参画、地域等、看護・保健活動が必要とされるフィールドにおいて、地域保健・産業保健、社会福祉のステークホルダーとの連携を図り、政策立案能力を有するリーダーの役割を發揮できる力を有する高度看護実践家の育成を主眼とした「健康医療政策学」を配置した。</p>	10科目20単位	2・3	1・2・4	4・5	
		健康医療政策学演習			1後			2・3	1・2・4	4・5	
ウィメンズヘルス看護学特論		1・2前	1・2	1・3・4	1・2・5						
ウィメンズヘルス看護学演習		1後	1・2	1・2・3	1・2・5						
精神看護学特論		1・2前	1・2	1・2・3	1・2・3						
精神看護学演習		1後	3・4	1・2・3	3・4・5						
産業看護学特論		1・2前	1・3	1・2	2・4・5						
産業看護学演習		1後	1・3	1・2	2・4・5						
特別研究科目	特別研究	2通	<p>「特別研究」 看護研究の遂行能力を高めるため、実務経験や職業倫理性を考慮し、指導教員のもと、「課題研究」に取り組む。看護の今日的課題の性質を鑑み、臨床現場や地域や職域で求められ還元性の高いテーマから、グローバルな視野を育むテーマまで幅広く取り上げ、看護の質の向上に貢献するためのエビデンスに基づいた看護研究を推進する能力を持った専門家を養成する。</p>	8単位	1・2・3・4	1・2・3・4・5・6	1・2・3・4・5				

- ①講義科目・演習科目:2単位90分授業15回
- ②共通科目:講義2単位15回 必修は看護研究Ⅰ・Ⅱ(4単位) 他
- ③特別研究:2年次通年(単位認定)、1年次では演習科目の中で研究テーマ絞り込みなどを指導
- ④CPの「7」については、各科目共通で該当する

科目名	研究方法Ⅰ（看護研究基礎）					担当教員名	豊川智之、白鳥孝子、新谷奈苗、久保幸代、竹内久美子、金子真理子、石館美弥子		
履修学年	1年	期間	前期	必・選の別	必修	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	看護研究の方法論的基礎を説明し、領域ごとの実践例を解説し、看護研究の基礎力を高めるとともに、看護研究の実践者としての研究計画と研究遂行のための能力を高める。相互討論することによって、論理的思考力を強化する。								
授業概要	看護研究の実例に触れることで、看護実践の向上に寄与する研究の意義と役割の理解へとつなげる。各領域の看護研究に触れながら、研究遂行のために不可欠となる看護研究の基礎理論を身につけ、研究費申請を含めた研究計画ならびに倫理委員会への申請書類の立案能力を高める。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.看護研究について具体的事例を説明でき、問題解決への応用する能力を得る。 2.専門領域の分野の課題を知識と経験を研究結果と交えて解決する方法を示すことができる。 3.研究計画において配慮すべき研究倫理について理解し、研究を遂行することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床や公衆衛生学的な諸問題に対して、看護師・保健師の実務経験をもとにした Nursing /Public Nursing Based 研究を遂行した経験を有する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	研究とは、科学的証明とは、研究のプロセスと研究計画、研究論文の構造について（豊川）							
	内容	研究サイクルと研究計画との関連性を理解する。再現性と研究ノートの重要性を説明する							
第2回	テーマ	量的研究と疫学的指標について（豊川）							
	内容	有病割合と罹患率について							
第3回	テーマ	疫学研究のデザインと研究の質について（豊川）							
	内容	介入研究と観察研究、横断研究と縦断研究							
第4回	テーマ	看護研究方法概論（豊川）							
	内容	質的研究と量的研究、質的分析と量的分析、記述疫学と分析疫学、看護研究類型							
第5回	テーマ	バイアスと交絡因子について（豊川）							
	内容	看護研究におけるバイアスや交絡因子の例を示し、その調整方法を紹介する							
第6回	テーマ	看護研究の事例紹介（豊川）							
	内容	記述疫学(保健統計学的研究)、因果推論的疫学研究、医療経済学的研究、医療政策学的研究の看護への応用							
第7回	テーマ	成人看護学領域の研究の事例紹介（白鳥）							
	内容	成人看護学領域の研究について概説し、研究疑問から研究の実施にいたるまでのプロセスについて実例を用いて討論する							
第8回	テーマ	産業看護学領域の研究の事例紹介（新谷）							
	内容	産業看護学領域の研究についてその歴史を含めて概説し、研究が立法や行政、そして社会にどのように関わるかについて討論する							
第9回	テーマ	母性看護領域の研究の事例紹介（久保）							
	内容	母性看護領域の研究について概説し、周産期をはじめとするライフコースの研究について討論する							
第10回	テーマ	看護管理学領域の研究の事例紹介（竹内）							
	内容	看護管理学領域の研究について概説し、特に看護におけるキャリア発達に関する研究について討論する							
第11回	テーマ	精神看護領域の研究の事例紹介（金子）							
	内容	精神看護領域の研究について概説し、看護研究のプロセスとすすめ方について討論する							
第12回	テーマ	小児看護領域の研究の事例紹介（石館）							
	内容	小児看護学領域の研究について概説し、健康課題もつ子どもへの支援に関する研究について討論する							
第13回	テーマ	研究計画書の書き方Ⅰ（豊川）							
	内容	期待される結果について、研究デザインの選択、サンプルサイズの算出方法							
第14回	テーマ	研究計画書の書き方Ⅱ（豊川）							
	内容	研究倫理概論、倫理審査委員会への申請書の作成方法							
第15回	テーマ	研究計画書の修正案のプレゼンテーション（豊川）							
	内容	各研究に対する質疑応答、助言							
教科書名	『心理測定を活かした看護研究』横山和仁・青木きよ子編著、金子書房、2013								
参考図書	「できる！臨床研究 最短攻略50の鉄則」康永秀生著、金原出版株式会社、2017 データ対話型理論の発見、BGグレイザー・ALストラウス、新曜社								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について									
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	個別研究支援型授業/対話型授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	研究方法Ⅰ（看護研究基礎）					担当教員名	豊川智之、白鳥孝子、新谷奈苗、久保幸代、竹内久美子、金子真理子、石館美弥子		
履修学年	1年	期間	前期	必・選の別	必修	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	看護研究の方法論的基礎を説明し、領域ごとの実践例を解説し、看護研究の基礎力を高めるとともに、看護研究の実践者としての研究計画と研究遂行のための能力を高める。								
授業概要	看護研究の実例に触れることで、看護実践の向上に寄与する研究の意義と役割の理解へとつなげる。各領域の看護研究に触れながら、研究遂行のために不可欠となる看護研究の基礎理論を身につけ、研究費申請を含めた研究計画ならびに倫理委員会への申請書類の立案能力を高める。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.看護研究について具体的事例を説明でき、問題解決への応用する能力を得る。 2.専門領域の分野の課題を知識と経験を研究結果と交えて解決する方法を示すことができる。 3.研究計画において配慮すべき研究倫理について理解し、研究を遂行することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床や公衆衛生学的な諸問題に対して、看護師・保健師の実務経験をもとにした Nursing /Public Nursing Based 研究を遂行した経験を有する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	研究とは、科学的証明とは、研究のプロセスと研究計画、研究論文の構造について（豊川）							
	内容	研究サイクルと研究計画との関連性を理解する。再現性と研究ノートの重要性を説明する							
第2回	テーマ	量的研究と疫学的指標について（豊川）							
	内容	有病割合と罹患率について							
第3回	テーマ	疫学研究のデザインと研究の質について（豊川）							
	内容	介入研究と観察研究、横断研究と縦断研究							
第4回	テーマ	看護研究方法概論（豊川）							
	内容	質的研究と量的研究、質的分析と量的分析、記述疫学と分析疫学、看護研究類型							
第5回	テーマ	バイアスと交絡因子について（豊川）							
	内容	看護研究におけるバイアスや交絡因子の例を示し、その調整方法を紹介する							
第6回	テーマ	看護研究の事例紹介（豊川）							
	内容	記述疫学(保健統計学的研究)、因果推論的疫学研究、医療経済学的研究、医療政策学的研究の看護への応用							
第7回	テーマ	成人看護学領域の研究の事例紹介（白鳥）							
	内容	成人看護学領域の研究について概説し、研究疑問から研究の実施にいたるまでのプロセスについて実例を用いて説明する							
第8回	テーマ	産業看護学領域の研究の事例紹介（新谷）							
	内容	産業看護学領域の研究についてその歴史を含めて概説し、研究が立法や行政、そして社会にどのように関わるかについて説明する							
第9回	テーマ	母性看護領域の研究の事例紹介（久保）							
	内容	母性看護領域の研究について概説し、周産期をはじめとするライフコースの研究について説明する							
第10回	テーマ	看護管理学領域の研究の事例紹介（竹内）							
	内容	看護管理学領域の研究について概説し、特に看護におけるキャリア発達に関する研究の実例を説明する							
第11回	テーマ	精神看護領域の研究の事例紹介（金子）							
	内容	精神看護領域の研究について概説し、看護研究のプロセスとすすめ方について説明する							
第12回	テーマ	小児看護領域の研究の事例紹介（石館）							
	内容	小児看護学領域の研究について概説し、健康課題もつ子どもへの支援に関する研究について説明する							
第13回	テーマ	研究計画書の書き方Ⅰ（豊川）							
	内容	期待される結果について、研究デザインの選択、サンプルサイズの算出方法							
第14回	テーマ	研究計画書の書き方Ⅱ（豊川）							
	内容	研究倫理概論、倫理審査委員会への申請書の作成方法							
第15回	テーマ	研究計画書の修正案のプレゼンテーション（豊川）							
	内容	各研究に対する質疑応答、助言							
教科書名	『心理測定を活かした看護研究』横山和仁・青木きよ子編著、金子書房、2013								
参考図書	「できる！臨床研究 最短攻略50の鉄則」康永秀生著、金原出版株式会社、2017 データ対話型理論の発見、BGグレーザー・ALストラウス、新曜社								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について									
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	個別研究支援型授業/対話型授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	研究方法Ⅱ(看護研究応用)					担当教員名	豊川智之、木下康仁、沼田華子、中澤明美、麻生保子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	必修	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	看護実践の応用力を身につけることを主眼に、質的・量的の主たる研究デザインの類型についての理解を深める。多職種連携を念頭においた看護研究を計画・遂行・報告できる応用力を身につける。ディスカッションを通して、論理的思考力を培う。								
授業概要	看護研究の応用力を身につけることを主眼に、質的・量的の主たる研究デザインの類型についての理解を深める。さらに、看護研究論文の批判的読解手法の習得を基軸に文献レビュー法とメタアナリシス研究手法について学ぶとともに、看護の各研究領域に特有のデザインについて理解し、多職種連携を念頭においた看護研究について幅広くプロトコルを策定できる能力を身につけ、多様な局面において看護研究を計画・遂行・報告できる応用力を身につける。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.質的研究の理論を理解し、研究計画を立案できる。 2.量的研究と質的研究の違いと相補的な活用を説明できる。 3.看護研究の批判的読解力を習得し、文献学的研究を計画できる。 4.看護研究の多様性を理解し、適切な手法を選択し、応用することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床や公衆衛生的な諸問題に対して、看護師・保健師の実務経験をもとにした Nursing /Public Nursing Based 研究を遂行した経験を有する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探索する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	看護科学の発展と質的研究方法 (木下)							
	内容	科学哲学である批判的実在論と看護研究における質的研究と量的研究の存在理由と看護研究の基本について							
第2回	テーマ	質的研究とM-GTA、および、看護学会誌掲載の質的研究論文の傾向 (木下)							
	内容	最近の看護研究の潮流と質的研究の種類について							
第3回	テーマ	M-GTAの代表的研究例(「老夫、老妻ヲ介護ス」)の検討 (木下)							
	内容	M-GTAを用いた質的研究の実例をもとにした質的研究の進め方の概要について							
第4回	テーマ	M-GTAの基本的な考え方と分析方法Ⅰ (木下)							
	内容	分析ワークシートによる概念生成と質的研究の始め方							
第5回	テーマ	M-GTAの基本的な考え方と分析方法Ⅱ (木下)							
	内容	結果図とストーリーラインの作成と質的研究のまとめ方							
第6回	テーマ	M-GTAと他の質的研究方法との比較 (木下)							
	内容	質的研究全体におけるM-GTAの立ち位置と、他の質的研究との連携について							
第7回	テーマ	質的研究の現在の研究実践例をもとに、質的研究の進め方について説明する (沼田)							
	内容	最新の研究事例の紹介と、質的研究の進め方の多様性について							
第8回	テーマ	学生の研究計画のプレゼンテーションをもとに、質的研究の進め方について説明する (沼田)							
	内容	各学生の研究計画をプレゼンテーションし、質的研究の応用について考える							
第9回	テーマ	公衆衛生領域における質的研究と量的研究の補完的分析事例の紹介 (豊川)							
	内容	住民参加型調査やインタビュー、エッセイと統計学的調査の補完的報告について紹介する							
第10回	テーマ	看護研究における指標についての考え方を説明し、量的研究と質的研究の違いについて説明する (豊川)							
	内容	看護研究で用いられる指標、特にメンタルヘルスをもとに、指標で測ることの有用性と限界について							
第11回	テーマ	老年看護学領域の研究について概説し、主に質的研究技法を用いた研究課題の実例を説明する (中澤)							
	内容	老年看護学領域の研究事例を紹介し、質的研究について説明する							
第12回	テーマ	ミックスドメソッドを用いた看護研究の実例を紹介し、質的研究と量的研究の関わり合いについて説明する (麻生)							
	内容	ミックスドメソッド研究の実例と質的研究と量的研究の補完的関係性を理解する							
第13回	テーマ	批判的読解と文献学的研究の進め方Ⅰ (豊川)							
	内容	研究方法の質と研究の手法的限界、内的妥当性と外的妥当性について解説する							
第14回	テーマ	各自の研究手法の再構築 (豊川)							
	内容	学生の研究計画のプレゼンテーションをもとに、研究計画についてディスカッションする							
第15回	テーマ	批判的読解と文献学的研究の進め方Ⅱ (豊川)							
	内容	学生の研究の参考論文を用いた批判的読解のプレゼンテーションによる研究の質についてディスカッションする							
教科書名	『定本M-GTA:実践の理論化をめざす質的研究方法論』木下康仁著、医学書院、2020 『質的研究と記述の厚み:M-GTA・事例・エスノグラフィー』木下康仁著、弘文堂、2009								
参考図書	『心理測定を活かした看護研究』横山和仁・青木きよ子編著、金子書房、2013								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	研究方法Ⅰ(看護研究基礎)								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	個別研究支援型授業/対話型授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	研究方法Ⅱ(看護研究応用)					担当教員名	豊川智之、木下康仁、沼田華子、中澤明美、麻生保子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	必修	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	看護研究実践の応用力を身につけることを主眼に、質的・量的の主たる研究デザインの類型についての理解を深める。多職種連携を念頭においた看護研究を計画・遂行・報告できる応用力を身につける。								
授業概要	看護研究の応用力を身につけることを主眼に、質的・量的の主たる研究デザインの類型についての理解を深める。さらに、看護研究論文の批判的読解手法の習得を基軸に文献レビュー法とメタアナリシス研究手法について学ぶとともに、看護の各研究領域に特有のデザインについて理解し、多職種連携を念頭においた看護研究について幅広くプロトコルを策定できる能力を身につけ、多様な局面において看護研究を計画・遂行・報告できる応用力を身につける。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.質的研究の理論を理解し、研究計画を立案できる。 2.量的研究と質的研究の違いと相補的な活用を説明できる。 3.看護研究の批判的読解力を習得し、文献学的研究を計画できる。 4.看護研究の多様性を理解し、適切な手法を選択し、応用することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床や公衆衛生学的な諸問題に対して、看護師・保健師の実務経験をもとにした Nursing /Public Nursing Based 研究を遂行した経験を有する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	看護科学の発展と質的研究方法 (木下)							
	内容	科学哲学である批判的実在論と看護研究における質的研究と量的研究の存在理由と看護研究の基本について							
第2回	テーマ	質的研究とM-GTA、および、看護学会誌掲載の質的研究論文の傾向 (木下)							
	内容	最近の看護研究の潮流と質的研究の種類について							
第3回	テーマ	M-GTAの代表的研究例(「老夫、老妻ヲ介護ス」)の検討 (木下)							
	内容	M-GTAを用いた質的研究の実例をもとにした質的研究の進め方の概要について							
第4回	テーマ	M-GTAの基本的な考え方と分析方法Ⅰ (木下)							
	内容	分析ワークシートによる概念生成と質的研究の始め方							
第5回	テーマ	M-GTAの基本的な考え方と分析方法Ⅱ (木下)							
	内容	結果図とストーリーラインの作成と質的研究のまとめ方							
第6回	テーマ	M-GTAと他の質的研究方法との比較 (木下)							
	内容	質的研究全体におけるM-GTAの立ち位置と、他の質的研究との連携について							
第7回	テーマ	質的研究の現在の研究実践例をもとに、質的研究の進め方について説明する (沼田)							
	内容	最新の研究事例の紹介と、質的研究の進め方の多様性について							
第8回	テーマ	学生の研究計画のプレゼンテーションをもとに、質的研究の進め方について説明する (沼田)							
	内容	各学生の研究計画をプレゼンテーションし、質的研究の応用について考える							
第9回	テーマ	公衆衛生領域における質的研究と量的研究の補完的分析事例の紹介 (豊川)							
	内容	住民参加型調査やインタビュー、エッセイと統計学的調査の補完的報告について紹介する							
第10回	テーマ	看護研究における指標についての考え方を説明し、量的研究と質的研究の違いについて説明する (豊川)							
	内容	看護研究で用いられる指標、特にメンタルヘルスをもとに、指標で測ることの有用性と限界について							
第11回	テーマ	老年看護学領域の研究について概説し、主に質的研究技法を用いた研究課題の実例を説明する (中澤)							
	内容	老年看護学領域の研究事例を紹介し、質的研究について説明する							
第12回	テーマ	ミックスドメソッドを用いた看護研究の実例を紹介し、質的研究と量的研究の関わり合いについて説明する (麻生)							
	内容	ミックスドメソッド研究の実例と質的研究と量的研究の補完的関係性を理解する							
第13回	テーマ	批判的読解と文献学的研究の進め方Ⅰ (豊川)							
	内容	研究方法の質と研究の手法的限界、内的妥当性と外的妥当性について解説する							
第14回	テーマ	各自の研究手法の再構築 (豊川)							
	内容	学生の研究計画のプレゼンテーションをもとに、研究計画についてディスカッションする							
第15回	テーマ	批判的読解と文献学的研究の進め方Ⅱ (豊川)							
	内容	学生の研究の参考論文を用いた批判的読解のプレゼンテーションによる研究の質についてディスカッションする							
教科書名	『定本M-GTA:実践の理論化をめざす質的研究方法論』木下康仁著、医学書院、2020 『質的研究と記述の厚み:M-GTA・事例・エスノグラフィー』木下康仁著、弘文堂、2009								
参考図書	『心理測定を活かした看護研究』横山和仁・青木きよ子編著、金子書房、2013								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	研究方法Ⅰ(看護研究基礎)								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	個別研究支援型授業/対話型授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	公衆衛生学特論					担当教員名	豊川智之、新谷奈苗、金子健彦		
履修学年	1・2年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	公衆衛生学領域の現代の事例の解説とディスカッションを通して、思考プロセスを身に付け、コミュニケーション能力とリーダーシップ能力を備えた多職種連携に貢献する高度専門職として必要な課題の多面性を理解し、ステークホルダーに配慮した事業計画や研究計画立案する能力を高める。								
授業概要	看護実践に必要な公衆衛生学の各領域の課題について、論点整理を行う視座を身につけ、高度専門職としての知識を高め、臨床・地域における多職種連携に貢献できる人材になることを目指す。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.公衆衛生学領域の現代の問題を理解したうえで考究し、今後のあり方について探求できる。 2.多様かつ新しく創出された価値観や最新のアプローチを学び主体的に考えることができる。 3.問題解決のための看護研究を適切な研究デザインに基づき立案し実施することができる。								
実務経験の有無	無								
実務経験の内容									
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	公衆衛生学的視座とは (豊川)							
	内容	臨床と公衆衛生の視座の違いについて、学生のリサーチクエスチョンを題材に議論する							
第2回	テーマ	公衆衛生学の現代的課題 (豊川)							
	内容	ハイリスクストラテジーとポピュレーションストラテジー、行動経済学的理論を用いた先進的な取り組みについて議論する							
第3回	テーマ	母子保健、国際保健 (豊川)							
	内容	国際保健における母子保健事業を紹介し、SDGsのもとでの持続可能な保健事業について議論する							
第4回	テーマ	感染症対策、地域計画 (豊川)							
	内容	感染症対策についてシミュレーションを用いた感染症の広がりの理解と、地域計画の立案について議論する							
第5回	テーマ	医療経済学と保健医療制度 (豊川)							
	内容	医療経済学の基礎を理解し、保健医療制度の公平性について議論する							
第6回	テーマ	リスクコミュニケーションとリスク選択 (豊川)							
	内容	リスク対策におけるリスク選択方法、リスクコミュニケーションと、政策的決定過程について議論する							
第7回	テーマ	がん疫学 (豊川)							
	内容	がん対策における現代の課題を整理し、スクリーニングの政策的判断について、東日本大震災などを踏まえて議論する							
第8回	テーマ	非感染性疾患と運動・栄養疫学 (豊川)							
	内容	健康日本21第2次終了時の評価と、第3次計画について議論し、国民運動の事業計画と関連する研究について議論する							
第9回	テーマ	社会疫学と健康格差 (豊川)							
	内容	健康格差についての具体的事例をもとに、アプローチが困難な層への取り組みについて議論する							
第10回	テーマ	産業衛生とヘルスプロモーション (新谷)							
	内容	ヘルスプロモーションと産業衛生に関する公衆衛生学の基礎とアプローチについて具体例を交えこれからのあり方を議論する							
第11回	テーマ	身体活動と医学 (金子)							
	内容	オリンピックなどのマスコガザメントイベントにおける公衆衛生についてスポーツドクターの観点から議論する							
第12回	テーマ	タバコと公衆衛生学 (豊川)							
	内容	タバコのリスク管理に関する歴史的経緯について学び、新型タバコに対する対策について議論する							
第13回	テーマ	医療へのアクセス (豊川)							
	内容	医師供給や受診行動について具体的事例を交えながら、超高齢社会における医療の在り方について議論する							
第14回	テーマ	健康危機管理学 (豊川)							
	内容	災害時における保健師の働きについてCOVID19の対策シミュレーションを通して緊急時の対応について議論する							
第15回	テーマ	公衆衛生学的視座についてのプレゼンテーション (豊川)							
	内容	学生のリサーチクエスチョンにおける公衆衛生学的側面の発表							
教科書名	わかる公衆衛生学、丸井英二、弘文堂								
参考図書	本当のたばこの話をしよう 毒なのか薬なのか、片野田耕太、日本評論社								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	双方向授業/対話型授業/ディスカッション/								
備考	なし								

科目名	公衆衛生学特論					担当教員名	豊川智之、新谷奈苗、金子健彦		
履修学年	1・2年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	公衆衛生学領域の基本的事項の理解を深めるとともに、現代の事例から、多職種連携に貢献する高度専門職として必要な課題の多面性を理解する。								
授業概要	看護実践に必要な公衆衛生学の各領域の課題について、論点整理を行う視座を身につけ、高度専門職としての知識を高め、臨床・地域における多職種連携に貢献できる人材になることを目指す。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) オムニバス方式	
到達目標	1.公衆衛生学領域の広範な問題を理解する。 2.多様な価値観やアプローチを主体的に考えることができる。 3.問題解決のための看護研究を立案することができる。								
実務経験の有無	無								
実務経験の内容									
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探索する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	公衆衛生学とは（豊川）							
	内容	ハイリスクストラテジーとポピュレーションストラテジー、メタボ検診							
第2回	テーマ	老人保健、地域保健（豊川）							
	内容	各種保険制度と予防事業と、行動経済学的理論を用いた先進的な取り組みの紹介							
第3回	テーマ	母子保健、国際保健（豊川）							
	内容	国際保健における母子保健事業を紹介し、根源的な母子保健の問題について議論する							
第4回	テーマ	感染症対策、地域計画（豊川）							
	内容	感染症対策についてシミュレーションを用いた感染症の広がりの理解と、地域計画の立案について議論する							
第5回	テーマ	医療経済学と保健医療制度（豊川）							
	内容	医療経済学の基礎を理解し、保健医療制度の公平性について議論する							
第6回	テーマ	リスクコミュニケーションとリスク選択（豊川）							
	内容	リスク対策におけるリスク選択方法、リスクコミュニケーションと政策的決定過程に見える大数の法則							
第7回	テーマ	がん疫学（豊川）							
	内容	感度特異度、ガン検診の政策的判断と住民へのリスクコミュニケーション、東日本大震災							
第8回	テーマ	非感染性疾患と運動・栄養疫学（豊川）							
	内容	1次予防、2次予防、3次予防と、自治体における予防活動の多様性について議論する							
第9回	テーマ	社会疫学と健康格差（豊川）							
	内容	社会疫学についての概説と、健康格差についての具体的事例をもとに、公衆衛生的なアプローチについて議論する							
第10回	テーマ	産業衛生とヘルスプロモーション（新谷）							
	内容	ヘルスプロモーションと産業衛生に関する公衆衛生学の基礎とアプローチについて具体例を交えながら理解を深める							
第11回	テーマ	身体活動と医学（金子）							
	内容	医療の視座からみた公衆衛生について身体活動などを事例に理解を深める							
第12回	テーマ	タバコと公衆衛生学（豊川）							
	内容	タバコのリスク管理に関する歴史的経緯について学び、新型タバコに対する公衆衛生的視座について議論する							
第13回	テーマ	医療へのアクセス（豊川）							
	内容	医師供給や受診行動について具体的事例を交えながら、理解を深める							
第14回	テーマ	健康危機管理学（豊川）							
	内容	災害時における保健師の働きについてシミュレーションを通して理解を深める							
第15回	テーマ	公衆衛生的視座についてのプレゼンテーション（豊川）							
	内容	学生のリサーチクエストにおける公衆衛生的側面の発表							
教科書名	わかる公衆衛生学、丸井英二、弘文堂								
参考図書	本当のたばこの話をしよう 毒なのか薬なのか、片野田耕太、日本評論社								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	双方向授業/対話型授業/ディスカッション/								
備考	なし								

科目名	地域包括ケア特論					担当教員名	麻生保子、大久保麻矢、河村秋、豊川智之		
履修学年	1年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	地域包括ケアシステムの概念の成立の背景、目的、意義を概説し、包括的支援の役割や課題解決の道筋について受講生と討論を行い論理的思考を育成する。また、地域包括ケアの実際や多職種連携の活動展開について解説し、地域マネジメントを含む今後の地域包括ケアについて探求する。								
授業概要	地域で暮らす様々な人々が、住み慣れた場所でその人らしく生きていくことができるよう看護の立場から地域包括ケア論を教授する。また、様々な困難や複数分野の課題を抱え、複合的支援を必要とする、高度な対人支援能力を養う事を目的とした生活支援方法やケアシステムの開発を目指す。講義方法はオムニバス方式とし、分野横断的にディスカッションをしながら、必要な知識並びに実践能力を修得する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.地域包括ケアシステムの概念を考究し、今後のあり方について探求できる。 2.地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携協働の意義と今後の課題について探求する。 3.地域包括ケアの取り組みの実際を知り、地域包括ケアにおける看護実践について探求する。 4.地域包括ケアの今後の方向性について、高度実践看護の視点から論理的に説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	保健所、障害保健福祉センター、男女平等参画センター等の保健師として、多職種と連携の基、相談業務や社会復帰支援業務を担当し、複合的支援や地域マネジメント業務を永年行っていた。これらを通し、地域包括ケアの実際や地域マネジメントについて担当する。								
学位授与方針	ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	地域包括ケアの背景と概要 (麻生)							
	内容	地域包括ケアシステムが必要な背景と進化の歴史をたどり今後の課題について検討する							
第2回	テーマ	地域包括ケアにおける重層的支援 (麻生)							
	内容	地域包括支援システムの支援方法としての重層的支援方法について概説するとともにその現状と課題を検討する							
第3回	テーマ	地域包括ケアの実際①妊娠・出産・育児 切れ目のない支援 (麻生)							
	内容	国内外の産後ケアの実際について概説し、周産期における切れ目のない支援について討論する							
第4回	テーマ	地域包括ケアの実際②産前産後支援や障害児の保護者、在日外国人母子を対象とした健康支援 (大久保)							
	内容	当事者の視点から地域包括ケアの課題を明らかにするとともに、対象に寄り添うケアの方法を討論する							
第5回	テーマ	地域包括ケアの実際③障害児・者への支援 (麻生)							
	内容	地域で生活をする事に困難を抱える障害児(者)へ調整可能なサービスや整えるべき環境について検討する							
第6回	テーマ	地域包括ケアの実際④地域において困難を抱えた若年者への支援について (河村)							
	内容	心身的問題や経済的問題などの困難を抱えた若年者への支援について、養育支援訪問の事例を通し、多職種と協働したケアについて討論する							
第7回	テーマ	地域包括ケアの実際⑤生活困難者の保健医療福祉へのアクセスからみた地域包括ケアの可能性について (豊川)							
	内容	東京・山谷地区において生活困難者を支援する多様な団体を事例に地域包括ケアについて討論する							
第8回	テーマ	地域包括ケアの実際⑥高齢者への支援 (麻生)							
	内容	地域包括支援センターの活動や看護小規模多機能型居宅介護など、地域包括ケアにおける看護実践を概説し、今後の課題について検討する							
第9回	テーマ	地域包括ケアの基盤となる住環境 (麻生)							
	内容	住み慣れた地域で自分らしく生活するために住環境整備はどのように進めたらよいか？事例を踏まえ検討する							
第10回	テーマ	地域包括ケアの基盤となる住まい方への支援 (麻生)							
	内容	シームレスに療養生活と地域生活が行えるよう、地域看護職の役割について検討する							
第11回	テーマ	多職種連携による地域ケア会議 (麻生)							
	内容	地域包括ケアを効果的に進めるための地域ケア会議の実際と課題について検討する							
第12回	テーマ	地域デザイン、地域マネジメントの概念 (麻生)							
	内容	全世代型地域共生社会の実現に向けた地域デザイン・地域マネジメントの概念について概説する							
第13回	テーマ	地域デザイン、地域マネジメント演習 (麻生)							
	内容	地域包括ケアを実現するために受講生が課題とする地域の地域デザイン、地域マネジメントを行うための地区診断を実施する							
第14回	テーマ	住民主体でつくる生活モデルの地域包括ケアシステムを考える (麻生)							
	内容	受講生が課題とする地域について、住民主体の地域包括ケアシステムを実現するための方策を検討する							
第15回	テーマ	医療・保健・福祉・教育が支えるまちづくり (麻生)							
	内容	人口減少が進む中、医療、保健、福祉、教育が地域を支える取り組み事例を参考に看護職としての役割を検討する							
教科書名	田中滋 監修、田城孝雄 編、内田要 編、地域包括ケアシステムの深化と医療が支えるまちづくりーソーシャルインクルージョンとSDGs。 東京大学出版会								
参考図書	適宜紹介します								
評価方法	資料準備30%、プレゼンテーションおよびディスカッション30%、レポート40%								
履修について	地域看護特論、地域看護演習、特別研究(地域看護学)を履修する者は本講義を履修する事が望ましい								
事前・事後学習等	・指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと ・受講生の課題に基づき、授業内でパワーポイントにまとめ発表できるように準備をする。授業終了後に討議を踏まえ、今後の方向性について、修正を加え提出する ・事前事後の学習には各回概ね1.5時間を要する								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/PBL								
備考	なし								

科目名	地域包括ケア特論					担当教員名	麻生保子、大久保麻矢、河村秋、豊川智之		
履修学年	1年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	地域包括ケアシステムの概念の成立の背景、目的、意義を概説し、包括的支援の役割や課題について受講生と共にディスカッションを行う。また、地域包括ケアの実際や多職種連携の活動展開について解説し、地域マネジメントを含む今後の地域包括ケアやについて検討する。								
授業概要	地域で暮らす様々な人々が、住み慣れた場所でその人らしく生きていくことができるよう看護の立場から地域包括ケア論を教授する。また、様々な困難や複数分野の課題を抱え、複合的支援を必要とする、高度な対人支援能力を養う事を目的とした生活支援方法やケアシステムの開発を目指す。講義方法はオムニバス方式とし、分野横断的にディスカッションをしながら、必要な知識並びに実践能力を修得する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) オムニバス方式	
到達目標	1.地域包括ケアシステムの概念について理解する。 2.地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携協働の意義について理解できる。 3.地域包括ケアの取り組みの実際を知る。 4.地域包括ケアの今後の方向性について主体的に考えることができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	保健所、障害保健福祉センター、男女平等参画センター等の保健師として、多職種と連携の基、相談業務や社会復帰支援業務を担当し、複合的支援や地域マネジメント業務を永年行っていた。これらを通し、地域包括ケアの実践や地域マネジメントについて担当する。								
学位授与方針	ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	地域包括ケアの背景と概要 (麻生)							
	内容	地域包括ケアシステムが必要な背景と進化の歴史をたどり今後の課題について検討する							
第2回	テーマ	地域包括ケアにおける重層的支援 (麻生)							
	内容	地域包括支援システムの支援方法としての重層的支援方法について概説するとともにその現状と課題を検討する							
第3回	テーマ	地域包括ケアの実際①妊娠・出産・育児 切れ目のない支援 (麻生)							
	内容	国内外の産後ケアの実際について概説し、周産期における切れ目のない支援について討論する							
第4回	テーマ	地域包括ケアの実際②産前産後支援や障害児の保護者、在日外国人母子を対象とした健康支援 (大久保)							
	内容	当事者の視点から地域包括ケアの課題を明らかにするとともに、対象に寄り添うケアの方法を討論する							
第5回	テーマ	地域包括ケアの実際③障害児・者への支援 (麻生)							
	内容	地域で生活をする事に困難を抱える障害児(者)へ調整可能なサービスや整えるべき環境について検討する							
第6回	テーマ	地域包括ケアの実際④地域において困難を抱えた若年者への支援について (河村)							
	内容	心身的問題や経済的問題などの困難を抱えた若年者への支援について、養育支援訪問の事例を通し、多職種と協働したケアについて討論する							
第7回	テーマ	地域包括ケアの実際⑤生活困難者の保健医療福祉へのアクセスからみた地域包括ケアの可能性について (豊川)							
	内容	東京・山谷地区において生活困難者を支援する多様な団体を事例に地域包括ケアについて討論する							
第8回	テーマ	地域包括ケアの実際⑥高齢者への支援 (麻生)							
	内容	地域包括支援センターの活動や看護小規模多機能型居宅介護など、地域包括ケアにおける看護実践を概説し、今後の課題について検討する							
第9回	テーマ	地域包括ケアの基盤となる住環境 (麻生)							
	内容	住み慣れた地域で自分らしく生活するために住環境整備はどのように進めたらよいか？事例を踏まえ検討する							
第10回	テーマ	地域包括ケアの基盤となる住まい方への支援 (麻生)							
	内容	シームレスに療養生活と地域生活が行えるよう、地域看護職の役割について検討する							
第11回	テーマ	多職種連携による地域ケア会議 (麻生)							
	内容	地域包括ケアを効果的に進めるための地域ケア会議の実際と課題について検討する							
第12回	テーマ	地域デザイン、地域マネジメントの概念 (麻生)							
	内容	全世代型地域共生社会の実現に向けた地域デザイン・地域マネジメントの概念について概説する							
第13回	テーマ	地域デザイン、地域マネジメント演習 (麻生)							
	内容	地域包括ケアを実現するために受講生が課題とする地域の地域デザイン、地域マネジメントを行うための地区診断を実施する							
第14回	テーマ	住民主体でつくる生活モデルの地域包括ケアシステムを考える (麻生)							
	内容	受講生が課題とする地域について、住民主体の地域包括ケアシステムを実現するための方策を検討する							
第15回	テーマ	医療・保健・福祉・教育が支えるまちづくり (麻生)							
	内容	人口減少が進む中、医療、保健、福祉、教育が地域を支える取り組み事例を参考に看護職としての役割を検討する							
教科書名	田中滋 監修、田城孝雄 編、内田要 編。地域包括ケアシステムの深化と医療が支えるまちづくりーソーシャルインクルージョンとSDGs。東京大学出版会								
参考図書	適宜紹介します								
評価方法	資料準備30%、プレゼンテーションおよびディスカッション30%、レポート40%								
履修について	地域看護特論、地域看護演習、特別研究(地域看護学)を履修する者は本講義を履修する事が望ましい								
事前・事後学習等	・指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと ・受講生の課題に基づき、授業内でパワーポイントにまとめ発表できるように準備をする。授業終了後に討議を踏まえ、今後の方向性について、修正を加え提出する ・事前事後の学習には各回概ね1.5時間を要する								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/PBL								
備考	なし								

科目名	看護管理特論					担当教員名	竹内久美子、大堀昇		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	看護管理に関連する理論を理解および探求し、組織の現状分析・課題解決に応用する。さらに、日本の保健医療システム、医療政策について理解し、これらの動向を把握する。ディスカッションを行うことで、論理的思考力を高める。								
授業概要	看護を取り巻く現状および看護管理の発展経緯を理解し、高度実践看護職および管理者としてあらゆる場での多職種との連携・協働に必要な看護管理の基本的諸理論について教授する。組織の現状分析と課題および課題解決に向けた方策について検討する。安全で質の高い看護を効率的に提供するための制度や政策および、看護職へのはたらきかけについて討議し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.看護管理に関連する理論(リーダーシップ論・キャリア発達論・動機づけ理論)について説明できる。 2.質の高い看護サービス提供のしくみについて考察できる。 3.看護管理上の課題について、具体的な解決方法を考察できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床で看護管理を経験し、さらに大学・大学院で看護管理を教育委経験をもつ実務経験教員が、看護管理の実際と課題について教授する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	看護管理とは (竹内)							
	内容	看護管理の歴史的変遷と取り巻く現状について教授する							
第2回	テーマ	看護教育のしくみ (竹内)							
	内容	看護教育と看護継続教育							
第3回	テーマ	看護政策 (竹内)							
	内容	政策過程とこれまでの看護政策の変遷について教授する							
第4回	テーマ	看護管理に関連する諸理論① (竹内)							
	内容	リーダーシップ論、キャリア発達論について教授する							
第5回	テーマ	看護管理に関連する諸理論② (大堀)							
	内容	動機づけ理論、意思決定理論について教授する							
第6回	テーマ	医療安全 (大堀)							
	内容	医療安全の制度としくみ・今後の課題について教授する							
第7回	テーマ	質の高い看護サービス提供のしくみ① (竹内)							
	内容	質の高い看護サービス提供のしくみと課題について教授する							
第8回	テーマ	質の高い看護サービス提供のしくみ② (竹内)							
	内容	質の高い看護サービス提供のしくみにおける課題をどのように解決するかディスカッションする							
第9回	テーマ	看護管理に関する課題① (大堀)							
	内容	看護管理に関するこれまでの課題さらに今日的課題について教授する							
第10回	テーマ	看護管理に関する課題② (大堀)							
	内容	看護管理に関するこれまでの課題さらに今日的課題について教授する							
第11回	テーマ	看護管理の課題と解決方法 (竹内・大堀)							
	内容	討議により、興味ある看護管理上の課題を検討する							
第12回	テーマ	看護管理の課題と解決方法 (竹内・大堀)							
	内容	個人ワークにより、興味ある看護管理上の課題の解決方法を考察する							
第13回	テーマ	プレゼンテーション① (竹内・大堀)							
	内容	興味・関心ある看護管理上の課題・背景・具体的な解決方法について発表しディスカッションする							
第14回	テーマ	プレゼンテーション② (竹内・大堀)							
	内容	興味・関心ある看護管理上の課題・背景・具体的な解決方法について発表しディスカッションする							
第15回	テーマ	まとめ (竹内・大堀)							
	内容	第1回から第14回の総括を行いフィードバックする							
教科書名	適宜指示する								
参考図書	適宜指示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	授業前には提示された資料を熟読し理解する(2h)、授業後プレゼンテーションの準備等を行う(2h)								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

科目名	看護管理特論					担当教員名	竹内久美子、大堀昇		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	看護管理に関連する理論を理解および探求し、組織の現状分析・課題解決に応用する。さらに、日本の保健医療システム、医療政策について理解し、これらの動向を把握する。								
授業概要	看護を取り巻く現状および看護管理の発展経緯を理解し、高度実践看護職および管理者としてあらゆる場での多職種との連携・協働に必要な看護管理の基本的諸理論について教授する。組織の現状分析と課題および課題解決に向けた方策について検討する。安全で質の高い看護を効率的に提供するための制度や政策および、看護職へのはたらきかけについて討議し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.看護管理に関連する理論(リーダーシップ論・キャリア発達論・動機づけ理論)について説明できる。 2.質の高い看護サービス提供のしくみについて考察できる。 3.看護管理上の課題について、具体的な解決方法を考察できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床で看護管理を経験し、さらに大学・大学院で看護管理を教育委経験をもつ実務経験教員が、看護管理の実際と課題について教授する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	看護管理とは (竹内)							
	内容	看護管理の歴史的変遷と取り巻く現状について教授する							
第2回	テーマ	看護教育のしくみ (竹内)							
	内容	看護教育と看護継続教育							
第3回	テーマ	看護政策 (竹内)							
	内容	政策過程とこれまでの看護政策の変遷について教授する							
第4回	テーマ	看護管理に関連する諸理論① (竹内)							
	内容	リーダーシップ論、キャリア発達論について教授する							
第5回	テーマ	看護管理に関連する諸理論② (大堀)							
	内容	動機づけ理論、意思決定理論について教授する							
第6回	テーマ	医療安全 (大堀)							
	内容	医療安全の制度としくみ・今後の課題について教授する							
第7回	テーマ	質の高い看護サービス提供のしくみ① (竹内)							
	内容	質の高い看護サービス提供のしくみと課題について教授する							
第8回	テーマ	質の高い看護サービス提供のしくみ② (竹内)							
	内容	質の高い看護サービス提供のしくみにおける課題をどのように解決するがグループワークする							
第9回	テーマ	看護管理に関する課題① (大堀)							
	内容	看護管理に関するこれまでの課題さらに今日的課題について教授する							
第10回	テーマ	看護管理に関する課題② (大堀)							
	内容	看護管理に関するこれまでの課題さらに今日的課題について教授する							
第11回	テーマ	看護管理の課題と解決方法 (竹内・大堀)							
	内容	グループワークにより、興味ある看護管理上の課題を検討する							
第12回	テーマ	看護管理の課題と解決方法 (竹内・大堀)							
	内容	個人ワークにより、興味ある看護管理上の課題の解決方法を考察する							
第13回	テーマ	プレゼンテーション① (竹内・大堀)							
	内容	興味・関心ある看護管理上の課題・背景・具体的な解決方法について発表しディスカッションする							
第14回	テーマ	プレゼンテーション② (竹内・大堀)							
	内容	興味・関心ある看護管理上の課題・背景・具体的な解決方法について発表しディスカッションする							
第15回	テーマ	まとめ (竹内・大堀)							
	内容	第1回から第14回の総括を行いフィードバックする							
教科書名	適宜指示する								
参考図書	適宜指示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	授業前には提示された資料を熟読し理解する(2h)、授業後プレゼンテーションの準備等を行う(2h)								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

<資料8>新

科目名	看護管理演習					担当教員名	竹内久美子、大堀昇		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	看護管理における諸理論を用いて、質の高い医療・看護を提供するための組織・人的資源管理・政策等について概説し、興味ある概念について探求する。概念分析の結果の発表を通して、論理的思考を養う。								
授業概要	看護管理における諸理論、質の高い医療・看護を提供するための組織とその構造・管理運営方法、保健医療福祉に携わる人々および組織管理者との調整・連携、人的資源管理、ケアの質向上や看護職の資質向上のための制度や政策決定過程について議論し、国内外の現状・課題を整理する。関連する理論、理論的枠組みを設定し、討議する。先行研究の検討、クリティークの力を培うとともに、関連理論を熟考し、研究テーマを精選した後、研究枠組みを設定する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.看護管理上の課題を研究的視点で考察できる。 2.研究的疑問について演繹的・帰納的に考察できる。 3.自身の関心あるテーマについて、理論的に説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床で看護管理を経験し、さらに大学・大学院で看護管理を教育委経験をもつ実務経験教員が、看護管理の実際と課題について教授する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	看護管理に関する課題の設定 (竹内)							
	内容	ブレインストーミングを用いて、看護管理上の課題を設定し、研究的な視点で考察する							
第2回	テーマ	課題の明確化と対応 (竹内)							
	内容	課題の明確化と対応方法について教授する。							
第3回	テーマ	看護管理に関する理論の活用① (大堀)							
	内容	設定した課題に関連する理論を探求する							
第4回	テーマ	看護管理に関する理論の活用② (大堀)							
	内容	設定した課題に関連する理論を探求する							
第5回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク① (大堀)							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、現状の紹介及び歴史的背景について検討する							
第6回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク② (大堀)							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第7回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク③ (竹内)							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第8回	テーマ	概念分析① (竹内)							
	内容	概念分析の手法について教授する							
第9回	テーマ	概念分析② (竹内)							
	内容	第5回から第7回の結果を踏まえて、関心ある概念を設定する							
第10回	テーマ	概念分析③ (竹内)							
	内容	設定した概念について先行する要件、属性、帰結を記述する							
第11回	テーマ	概念分析④ (竹内)							
	内容	設定した概念を定義する							
第12回	テーマ	概念分析③ (竹内)							
	内容	概念分析の結果をまとめる							
第13回	テーマ	プレゼンテーション① (竹内、大堀)							
	内容	概念分析の結果を発表し、ディスカッションする							
第14回	テーマ	プレゼンテーション② (竹内、大堀)							
	内容	概念分析の結果を発表し、ディスカッションする							
第15回	テーマ	まとめ (竹内)							
	内容	第1回から第14回の総括を行う							
教科書名	適宜指示する								
参考図書	適宜指示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	授業前には提示または指示された資料を熟読し理解する(2h)、授業後プレゼンテーションの準備等を行う(2h)								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

科目名	看護管理演習					担当教員名	竹内久美子、大堀昇		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	看護管理における諸理論を用いて、質の高い医療・看護を提供するための組織・人的資源管理・政策等について概説し、興味ある概念について探求する。								
授業概要	看護管理における諸理論、質の高い医療・看護を提供するための組織とその構造・管理運営方法、保健医療福祉に携わる人々および組織管理者との調整・連携、人的資源管理、ケアの質向上や看護職の資質向上のための制度や政策決定過程について議論し、国内外の現状・課題を整理する。関連する理論、理論的枠組みを設定し、討議する。先行研究の検討、クリティークの力を培うとともに、関連理論を熟考し、研究テーマを精選した後、研究枠組みを設定する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.看護管理上の課題を研究的視点で考察できる。 2.研究的疑問について演繹的・帰納的に考察できる。 3.自身の関心あるテーマについて、理論的に説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	臨床で看護管理を経験し、さらに大学・大学院で看護管理を教育委経験をもつ実務経験教員が、看護管理の実際と課題について教授する。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	看護管理に関する課題の設定（竹内）							
	内容	ブレインストーミングを用いて、看護管理上の課題を設定し、研究的な視点で考察する							
第2回	テーマ	課題の明確化と対応（竹内）							
	内容	課題の明確化と対応方法について教授する。							
第3回	テーマ	看護管理に関する理論の活用①（大堀）							
	内容	設定した課題に関連する理論を探求する							
第4回	テーマ	看護管理に関する理論の活用②（大堀）							
	内容	設定した課題に関連する理論を探求する							
第5回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク①（大堀）							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、現状の紹介及び歴史的背景について検討する							
第6回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク②（大堀）							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第7回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク③（竹内）							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第8回	テーマ	概念分析①（竹内）							
	内容	概念分析の手法について教授する							
第9回	テーマ	概念分析②（竹内）							
	内容	第5回から第7回の結果を踏まえて、関心ある概念を設定する							
第10回	テーマ	概念分析③（竹内）							
	内容	設定した概念について先行する要件、属性、帰結を記述する							
第11回	テーマ	概念分析④（竹内）							
	内容	設定した概念を定義する							
第12回	テーマ	概念分析③（竹内）							
	内容	概念分析の結果をまとめる							
第13回	テーマ	プレゼンテーション①（竹内、大堀）							
	内容	概念分析の結果を発表し、ディスカッションする							
第14回	テーマ	プレゼンテーション②（竹内、大堀）							
	内容	概念分析の結果を発表し、ディスカッションする							
第15回	テーマ	まとめ（竹内）							
	内容	第1回から第14回の総括を行う							
教科書名	適宜指示する								
参考図書	適宜指示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	授業前には提示または指示された資料を熟読し理解する(2h)、授業後プレゼンテーションの準備等を行う(2h)								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

<資料9>新

科目名	小児看護学特論					担当教員名	石館美弥子		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	小児各期における成長・発達の特徴および主要な諸理論を学び、子どもと家族の健康課題を生涯発達の視点から考察し、有効な援助のあり方を概説する。相互討論することによって、論理的思考を高める。								
授業概要	現代の子どもと家族が抱える健康問題を生涯発達の視点から理解し、小児看護の課題を整理する。子どもの成長・発達、健康障害、養育環境など、国内外の小児保健・看護の現状を概観し、健康課題に関する現象を解析する。子どもと家族にまつわる健康課題をアセスメントし有効な援助方法を検討するために、関連する概念および諸理論を学ぶ。授業方法は、各単元のテーマに沿って講義および演習方式で構成し、カンファレンスは学生が主体的に運営する。グループディスカッションを通して、自己の実践活動の基礎となる理論的思考を習得する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) —	
到達目標	1.子どもの発達段階を理解し関連概念や発達理論について説明できる。 2.子どもの健康課題と家族発達との関連について理解する。 3.小児看護における研究の動向を明らかにし、実践活動の方向性を明確にできる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	大学病院看護師としての実務経験を活かして、エビデンスに基づいた実践的教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	小児保健・看護活動における基本概念							
	内容	小児保健・看護活動における最新の知見、自己の学習計画の立案							
第2回	テーマ	子どもと家族を取り巻く健康課題							
	内容	少子化、育児不安、食育、小児保健システム							
第3回	テーマ	子どもと家族を取り巻く健康課題							
	内容	子どもと家族に関する健康課題と家族発達との関連							
第4回	テーマ	子どもの倫理・権利							
	内容	子どもの権利条約、小児看護と倫理的配慮							
第5回	テーマ	子どもの倫理・権利							
	内容	インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、意思決定支援							
第6回	テーマ	心理学的発達理論の構造と分析							
	内容	フロイトの心理学的発達理論							
第7回	テーマ	心理社会的理論の構造と分析							
	内容	エリクソンの心理社会的理論							
第8回	テーマ	愛着理論の構造と分析							
	内容	ボウルビイの愛着理論、マラーの分離-個体化理論							
第9回	テーマ	認知発達理論の構造と分析							
	内容	ピアジェの認知発達理論、ヴィゴツキーの社会文化的認知理論							
第10回	テーマ	家族理論の構造と分析							
	内容	フリードマンの家族看護理論、デュバルの家族発達理論							
第11回	テーマ	諸理論と子どもと家族の健康課題							
	内容	諸理論の特徴、子どもと家族の健康課題との関連							
第12回	テーマ	関連理論と課題事例							
	内容	関連理論と看護の役割の明確化、事例分析と討論							
第13回	テーマ	関連理論と課題事例							
	内容	関連理論、看護の役割の明確化、事例分析と討論							
第14回	テーマ	小児保健・看護に関する研究の動向と課題							
	内容	国内外の小児保健・看護、実践活動の現状と課題							
第15回	テーマ	学習の統合と実践活動の明確化							
	内容	実践活動の方向性の明確化、プレゼンテーション							
教科書名	なし								
参考図書	必要に応じて適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーション・質疑応答50%、課題レポート50%								
履修について	なし								
事前・事後学習等	事前学習：次回の授業内容を予習しノートにまとめておく。事後学習：授業中の疑問点を次回までに解決しておく								
キーワード	ディスカッション／プレゼンテーション／アクティブラーニング								
備考	教員と積極的にコンタクトをとり授業への主体的な参加を望む。課題レポートに対し授業内で解説等のフィードバックを行う								

科目名	小児看護学特論					担当教員名	石舘美弥子		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	小児各期における成長・発達の特徴および主要な諸理論を学び、子どもと家族の健康課題を生涯発達の視点から考察し、有効な援助のあり方を概説する。								
授業概要	現代の子どもと家族が抱える健康問題を生涯発達の視点から理解し、小児看護の課題を整理する。子どもの成長・発達、健康障害、養育環境など、国内外の小児保健・看護の現状を概観し、健康課題に関する現象を解析する。子どもと家族にまつわる健康課題をアセスメントし有効な援助方法を検討するために、関連する概念および諸理論を学ぶ。授業方法は、各単元のテーマに沿って講義および演習方式で構成し、カンファレンスは学生が主体的に運営する。グループディスカッションを通して、自己の実践活動の基礎となる理論的思考を習得する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
到達目標	1.子どもの発達段階を理解し関連概念や発達理論について説明できる。 2.子どもの健康課題と家族発達との関連について理解する。 3.小児看護における研究の動向を明らかにし、実践活動の方向性を明確にできる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	大学病院看護師としての実務経験を活かして、エビデンスに基づいた実践的教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探究する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	小児保健・看護活動における基本概念							
	内容	小児保健・看護活動における最新の知見、自己の学習計画の立案							
第2回	テーマ	子どもと家族を取り巻く健康課題							
	内容	少子化、育児不安、食育、小児保健システム							
第3回	テーマ	子どもと家族を取り巻く健康課題							
	内容	子どもと家族に関する健康課題と家族発達との関連							
第4回	テーマ	子どもの倫理・権利							
	内容	子どもの権利条約、小児看護と倫理的配慮							
第5回	テーマ	子どもの倫理・権利							
	内容	インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、意思決定支援							
第6回	テーマ	心理学的発達理論の構造と分析							
	内容	フロイトの心理学的発達理論							
第7回	テーマ	心理社会的理論の構造と分析							
	内容	エリクソンの心理社会的理論							
第8回	テーマ	愛着理論の構造と分析							
	内容	ボウルビイの愛着理論、マラーの分離-個体化理論							
第9回	テーマ	認知発達理論の構造と分析							
	内容	ピアジェの認知発達理論、ヴィゴツキーの社会文化的認知理論							
第10回	テーマ	家族理論の構造と分析							
	内容	フリードマンの家族看護理論、デュバルの家族発達理論							
第11回	テーマ	諸理論と子どもと家族の健康課題							
	内容	諸理論の特徴、子どもと家族の健康課題との関連							
第12回	テーマ	関連理論と課題事例							
	内容	関連理論と看護の役割の明確化、事例分析							
第13回	テーマ	関連理論と課題事例							
	内容	関連理論、看護の役割の明確化、事例分析							
第14回	テーマ	小児保健・看護に関する研究の動向と課題							
	内容	国内外の小児保健・看護、実践活動の現状と課題							
第15回	テーマ	学習の統合と実践活動の明確化							
	内容	実践活動の方向性の明確化、プレゼンテーション							
教科書名	なし								
参考図書	必要に応じて適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーション・質疑応答50%、課題レポート50%								
履修について	なし								
事前・事後学習等	事前学習：次回の授業内容を予習しノートにまとめておく。事後学習：授業中の疑問点を次回までに解決しておく								
キーワード	ディスカッション／プレゼンテーション／アクティブラーニング								
備考	教員と積極的にコンタクトをとり授業への主体的な参加を望む。課題レポートに対し授業内で解説等のフィードバックを行う								

科目名	小児看護学演習					担当教員名	石舘美弥子、石川紀子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	子どもと家族に関する援助方法や実践的な視点から国内外の研究論文を精読し、明確化した研究課題を追求するための研究方法を習得する。ディスカッションを通して、論理的思考を強化する。								
授業概要	子どもと家族に関する援助方法や実践的な支援システムなど、国内外の研究論文を精読し子どもと家族にまつわる特定課題を抽出する。関連文献の検索、論文のクリティークを実施し研究課題を見出すとともに代表的な研究デザインを学び、先行研究の理論的基盤に基づき文献レビューを作成する。さらに、小児看護に関連する学術集會に参加し最新の知見を踏まえて自己の研究課題を追求するための研究計画を展望する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								共同	
到達目標	1.研究の目的を理解し、研究課題の意義を説明できる。 2.研究デザイン、分析方法を理解し、その妥当性と信頼性を説明できる。 3.自己の研究課題を追求するための研究計画を立案できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	石舘美弥子: 大学病院看護師としての実務経験を活かして、エビデンスに基づいた実践的教育を行う。 石川紀子: 小児専門病院看護師としての実務経験を活かして、エビデンスに基づいた実践的教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	研究課題に関連した文献精読							
	内容	研究課題の確認、自己の学習計画の立案							
第2回	テーマ	先行文献の概観							
	内容	自己の研究課題の明確化、先行文献の検討							
第3回	テーマ	先行文献の概観							
	内容	自己の研究課題の明確化、先行文献の検討							
第4回	テーマ	調査研究の論文							
	内容	調査研究の論文の選択							
第5回	テーマ	調査研究の論文の検討							
	内容	調査研究の論文のクリティークとディスカッション							
第6回	テーマ	実験研究の論文							
	内容	実験研究の論文の選択							
第7回	テーマ	実験研究の論文の検討							
	内容	実験研究の論文のクリティークとディスカッション							
第8回	テーマ	研究方法、測定用具の妥当性・信頼性							
	内容	研究デザイン、測定用具の妥当性・信頼性の検討							
第9回	テーマ	質的研究の論文							
	内容	質的研究の論文の選択							
第10回	テーマ	質的研究の論文の検討							
	内容	質的研究の論文のクリティークとディスカッション							
第11回	テーマ	小児保健・看護の学術集會の参加							
	内容	最新の研究知見の整理、自己の研究課題の焦点化							
第12回	テーマ	小児保健・看護の学術集會の参加							
	内容	最新の研究知見の整理、自己の研究課題の焦点化							
第13回	テーマ	文献レビュー							
	内容	文献レビューの作成							
第14回	テーマ	倫理的配慮と倫理審査の必要性							
	内容	倫理審査に必要な書類の検討							
第15回	テーマ	研究計画							
	内容	研究計画の立案							
教科書名	なし								
参考図書	必要に応じて適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーション・質疑応答50%、研究計画書50%								
履修について	なし								
事前・事後学習等	事前学習: 次回の授業内容を予習し最新の知見をまとめておく。事後学習: 授業中の疑問点を次回までに解決しておく								
キーワード	ディスカッション／プレゼンテーション／アクティブラーニング								
備考	担当教員と積極的にコンタクトをとり授業への主体的な参加を望む。ディスカッション、プレゼンテーションを通してコメント等のフィードバックを行う								

科目名	小児看護学演習					担当教員名	石館美弥子、石川紀子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	子どもと家族に関する援助方法や実践的な視点から国内外の研究論文を精読し、明確化した研究課題を追求するための研究方法を習得する。								
授業概要	子どもと家族に関する援助方法や実践的な支援システムなど、国内外の研究論文を精読し子どもと家族にまつわる特定課題を抽出する。関連文献の検索、論文のクリティークを実施し研究課題を見出すとともに代表的な研究デザインを学び、先行研究の理論的基盤に基づき文献レビューを作成する。さらに、小児看護に関連する学術集會に参加し最新の知見を踏まえて自己の研究課題を追求するための研究計画を展望する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) 共同	
到達目標	1.研究の目的を理解し、研究課題の意義を説明できる。 2.研究デザイン、分析方法を理解し、その妥当性と信頼性を説明できる。 3.自己の研究課題を追求するための研究計画を立案できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	石館美弥子:大学病院看護師としての実務経験を活かして、エビデンスに基づいた実践的教育を行う。 石川紀子:小児専門病院看護師としての実務経験を活かして、エビデンスに基づいた実践的教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	研究課題に関連した文献精読							
	内容	研究課題の確認、自己の学習計画の立案							
第2回	テーマ	先行文献の概観							
	内容	自己の研究課題の明確化、先行文献の検討							
第3回	テーマ	先行文献の概観							
	内容	自己の研究課題の明確化、先行文献の検討							
第4回	テーマ	調査研究の論文							
	内容	調査研究の論文の選択							
第5回	テーマ	調査研究の論文の検討							
	内容	調査研究の論文のクリティーク							
第6回	テーマ	実験研究の論文							
	内容	実験研究の論文の選択							
第7回	テーマ	実験研究の論文の検討							
	内容	実験研究の論文のクリティーク							
第8回	テーマ	研究方法、測定用具の妥当性・信頼性							
	内容	研究デザイン、測定用具の妥当性・信頼性の検討							
第9回	テーマ	質的研究の論文							
	内容	質的研究の論文の選択							
第10回	テーマ	質的研究の論文の検討							
	内容	質的研究の論文のクリティーク							
第11回	テーマ	小児保健・看護の学術集會の参加							
	内容	最新の研究知見の整理、自己の研究課題の焦点化							
第12回	テーマ	小児保健・看護の学術集會の参加							
	内容	最新の研究知見の整理、自己の研究課題の焦点化							
第13回	テーマ	文献レビュー							
	内容	文献レビューの作成							
第14回	テーマ	倫理的配慮と倫理審査の必要性							
	内容	倫理審査に必要な書類の検討							
第15回	テーマ	研究計画							
	内容	研究計画の立案							
教科書名	なし								
参考図書	必要に応じて適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーション・質疑応答50%、研究計画書50%								
履修について	なし								
事前・事後学習等	事前学習:次回の授業内容を予習し最新の知見をまとめておく。事後学習:授業中の疑問点を次回までに解決しておく								
キーワード	ディスカッション/プレゼンテーション/アクティブラーニング								
備考	担当教員と積極的にコンタクトをとり授業への主体的な参加を望む。ディスカッション、プレゼンテーションを通してコメント等のフィードバックを行う								

科目名	成人看護学特論					担当教員名	白鳥孝子		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人々の健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について概説し、よりよい看護実践についての考察を深める。相互討議をすることによって、論理的思考を高める。								
授業概要	成人期にある健康障害を抱えた人々の理解、及びそのような人々への看護の基盤となる理論、概念及び看護実践に必要な方法論について学ぶ。その上で、成人期にある人が自らの能力を最大限発揮でき、健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について検討を行い、理論や概念と現象を結びつけ、よりよい看護実践についての考察を深める。また、このプロセスにおいては、個人の看護実践に留まらず、看護チーム全体の看護力の向上を目指すための方策についても検討し、チームを牽引できる力を身に付ける。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								—	
到達目標	1.成人期にある健康障害を抱えた人々の理解及び看護の基盤となる理論、概念、看護実践に必要な方法論について説明できる。 2.成人期にある人の健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について説明できる。 3.看護チーム全体の看護力の向上を目指すための方策について検討することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護職として病院に勤務した実務経験を有する。この実務経験を活かして、より実践的な教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種を持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	成人期にある人の理解							
	内容	成人期にある人を取り巻く社会背景と成人期にある人の健康について教授する							
第2回	テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人の理解							
	内容	成人期にある健康障害を抱えた人を理解するための諸理論及び倫理的課題について教授する							
第3回	テーマ	急性状況下にある人の理解と看護実践①							
	内容	急性状況下にある人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第4回	テーマ	急性状況下にある人の理解と看護実践②							
	内容	事例を用いて討議を行う							
第5回	テーマ	慢性期にある人の理解と看護実践①							
	内容	慢性期にある人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第6回	テーマ	慢性期にある人の理解と看護実践②							
	内容	事例を用いて討議を行う							
第7回	テーマ	終末期にある人の理解と看護実践①							
	内容	終末期にある人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第8回	テーマ	終末期にある人の理解と看護実践②							
	内容	事例を用いて討議を行う							
第9回	テーマ	リハビリテーションと看護①							
	内容	リハビリテーションを必要とする人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第10回	テーマ	リハビリテーションと看護②							
	内容	事例を用いて討議を行う							
第11回	テーマ	在宅療養支援と外来看護							
	内容	在宅で療養する人を支える外来看護の役割について教授する							
第12回	テーマ	看護チーム連携と他職種連携							
	内容	質の高いチーム医療を提供するために看護師に求められる役割及び実践について教授する							
第13回	テーマ	チームリーダーと看護①							
	内容	看護の質を向上させるためのチームリーダーの役割について教授する							
第14回	テーマ	チームリーダーと看護②							
	内容	事例を用いて討議を行う							
第15回	テーマ	まとめ							
	内容	第1回～14回の総括を行う							
教科書名	なし。講義時に資料を配布する								
参考図書	適宜、提示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	授業の復習;1時間、プレゼンテーションの準備;1.5時間								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

科目名	成人看護学特論					担当教員名	白鳥孝子		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人々の健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について概説し、よりよい看護実践についての考察を深める。								
授業概要	成人期にある健康障害を抱えた人々の理解、及びそのような人々への看護の基盤となる理論、概念および看護実践に必要な方法論について学ぶ。その上で、成人期にある人が自らの能力を最大限発揮でき、健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について検討を行い、理論や概念と現象を結びつけ、よりよい看護実践についての考察を深める。また、このプロセスにおいては、個人の看護実践に留まらず、看護チーム全体の看護力の向上を目指すための方策についても検討し、チームを牽引できる力を身に付ける。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
到達目標	1.成人期にある健康障害を抱えた人々の理解及び看護の基盤となる理論、概念、看護実践に必要な方法論について説明できる。 2.成人期にある人の健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について説明できる。 3.看護チーム全体の看護力の向上を目指すための方策について検討することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護職として病院に勤務した実務経験を有する。この実務経験を活かして、より実践的な教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	成人期にある人の理解							
	内容	成人期にある人を取り巻く社会背景と成人期にある人の健康について教授する							
第2回	テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人の理解							
	内容	成人期にある健康障害を抱えた人を理解するための諸理論について教授する							
第3回	テーマ	急性状況下にある人の理解と看護実践①							
	内容	急性状況下にある人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第4回	テーマ	急性状況下にある人の理解と看護実践②							
	内容	事例を用いたグループワークを行う							
第5回	テーマ	慢性期にある人の理解と看護実践①							
	内容	慢性期にある人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第6回	テーマ	慢性期にある人の理解と看護実践②							
	内容	事例を用いたグループワークを行う							
第7回	テーマ	終末期にある人の理解と看護実践①							
	内容	終末期にある人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第8回	テーマ	終末期にある人の理解と看護実践②							
	内容	事例を用いたグループワークを行う							
第9回	テーマ	リハビリテーションと看護①							
	内容	リハビリテーションを必要とする人の理解と看護実践のための諸理論について教授する							
第10回	テーマ	リハビリテーションと看護②							
	内容	事例を用いたグループワークを行う							
第11回	テーマ	在宅療養支援と外来看護							
	内容	在宅で療養する人を支える外来看護の役割について教授する							
第12回	テーマ	看護チーム連携と他職種連携							
	内容	質の高いチーム医療を提供するために看護師に求められる役割及び実践について教授する							
第13回	テーマ	チームリーダーと看護①							
	内容	看護の質を向上させるためのチームリーダーの役割について教授する							
第14回	テーマ	チームリーダーと看護②							
	内容	事例を用いたグループワークを行う							
第15回	テーマ	まとめ							
	内容	第1回～14回の総括を行う							
教科書名	なし。講義時に資料を配布する								
参考図書	適宜、提示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	授業の復習;1時間、プレゼンテーションの準備;1.5時間								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

科目名	成人看護学演習					担当教員名	白鳥孝子、熊田奈津紀、段ノ上秀雄		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題について、学生がもつ課題や関心のあるテーマについて、課題の明確化および課題への取り組みについて検討する。論理的思考力を高めるために相互的な討議を行う。								
授業概要	成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題について、学生がもつ課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化および課題への取り組みについて検討する。演習方法は、学生のプレゼンテーションとディスカッションを主体として行い、自らの関心のあるテーマを追求し、発表するという体験を通して、研究者として、また、看護チームのリーダーとしての基礎的な能力を身につけることを目指す。実践的な課題の場合は、看護介入方法についてシミュレーション演習のシナリオ作成・演習の実施を取り入れ、より実践的な介入方法の検討を行う。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題の明確化の方法について説明できる。 2.自らの関心のあるテーマを追求し、得た成果を臨床現場に還元する方法について説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護職として病院に勤務した実務経験を有する。この実務経験を活かして、より実践的な教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人の看護に関する課題（白鳥）							
	内容	成人期にある健康障害を抱えた人の看護に関する課題の探求方法について教授する							
第2回	テーマ	課題の明確化と対応（白鳥）							
	内容	課題の明確化と対応方法について教授する							
第3回	テーマ	シミュレーション教育の活用①（白鳥）							
	内容	シミュレーション教育の意義と方法について教授する							
第4回	テーマ	シミュレーション教育の活用②（白鳥）							
	内容	シミュレーション教育の実践方法について教授する							
第5回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク①（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、現状の紹介及び歴史的背景について討議する							
第6回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク②（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第7回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク③（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第8回	テーマ	課題への取り組みの明確化と現場への還元方法①（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	明確になった課題への取り組みを発表し、臨床現場への還元方法について討議する							
第9回	テーマ	課題への取り組みの明確化と現場への還元方法②（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	明確になった課題への取り組みを発表し、臨床現場への還元方法について討議する							
第10回	テーマ	課題への取り組みのシミュレーション教育①（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	現場への還元方法としてシミュレーションシナリオを作成する							
第11回	テーマ	課題への取り組みのシミュレーション教育②（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	作成したシナリオを検討する							
第12回	テーマ	課題への取り組みのシミュレーション教育③（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	看護実践者及びファシリテーターを体験し、シナリオを精錬する							
第13回	テーマ	シミュレーション教育の実践と評価①（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	第11回・12回で作成したシミュレーションシナリオを臨床の実践者に対し実施する							
第14回	テーマ	シミュレーション教育の実践と評価②（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	第13回の評価を行い、臨床現場への還元方法を再考する							
第15回	テーマ	まとめ（白鳥、熊田、段ノ上）							
	内容	第1回～14回の総括を行う							
教科書名	なし。講義時に資料を配布する								
参考図書	適宜、提示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	成人看護学特論を修得しておくこと								
事前・事後学習等	授業の復習;1時間、プレゼンテーションの準備;1.5時間								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

科目名	成人看護学演習					担当教員名	白鳥孝子、熊田奈津紀、段ノ上秀雄		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題について、学生がもつ課題や関心のあるテーマについて、課題の明確化および課題への取り組みについて検討する。								
授業概要	成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題について、学生がもつ課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化および課題への取り組みについて検討する。演習方法は、学生のプレゼンテーションとディスカッションを主体として行い、自らの関心のあるテーマを追求し、発表するという体験を通して、研究者として、また、看護チームのリーダーとしての基礎的な能力を身につけることを目指す。実践的な課題の場合は、看護介入方法についてシミュレーション演習のシナリオ作成・演習の実施を取り入れ、より実践的な介入方法の検討を行う。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題の明確化の方法について説明できる。 2.自らの関心のあるテーマを追求し、得た成果を臨床現場に還元する方法について説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護職として病院に勤務した実務経験を有する。この実務経験を活かして、より実践的な教育を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者並びに多職種を持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	成人期にある健康障害を抱えた人の看護に関する課題 (白鳥)							
	内容	成人期にある健康障害を抱えた人の看護に関する課題の探求方法について教授する							
第2回	テーマ	課題の明確化と対応 (白鳥)							
	内容	課題の明確化と対応方法について教授する							
第3回	テーマ	シミュレーション教育の活用① (白鳥)							
	内容	シミュレーション教育の意義と方法について教授する							
第4回	テーマ	シミュレーション教育の活用② (白鳥)							
	内容	シミュレーション教育の実践方法について教授する							
第5回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク① (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、現状の紹介及び歴史的背景について検討する							
第6回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク② (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第7回	テーマ	課題に対する文献検討・クリティーク③ (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化を行う							
第8回	テーマ	課題への取り組みの明確化と現場への還元方法① (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	明確になった課題への取り組みを発表し、臨床現場への還元方法について検討する							
第9回	テーマ	課題への取り組みの明確化と現場への還元方法② (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	明確になった課題への取り組みを発表し、臨床現場への還元方法について検討する							
第10回	テーマ	課題への取り組みのシミュレーション教育① (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	現場への還元方法としてシミュレーションシナリオを作成する							
第11回	テーマ	課題への取り組みのシミュレーション教育② (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	作成したシナリオを検討する							
第12回	テーマ	課題への取り組みのシミュレーション教育③ (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	看護実践者及びファシリテーターを体験し、シナリオを精錬する							
第13回	テーマ	シミュレーション教育の実践と評価① (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	第11回・12回で作成したシミュレーションシナリオを臨床の実践者に対し実施する							
第14回	テーマ	シミュレーション教育の実践と評価② (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	第13回の評価を行い、臨床現場への還元方法を再考する							
第15回	テーマ	まとめ (白鳥、熊田、段ノ上)							
	内容	第1回～14回の総括を行う							
教科書名	なし。講義時に資料を配布する								
参考図書	適宜、提示する								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	成人看護学特論を修得しておくこと								
事前・事後学習等	授業の復習;1時間、プレゼンテーションの準備;1.5時間								
キーワード	双方向授業/アクティブラーニング/プレゼンテーション								
備考	課題に対するフィードバックは授業内で行う								

科目名	老年看護学特論					担当教員名	中澤明美		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	本科目は、老年看護の基盤となる対象の理解や認知症ケア、終末期ケア、家族介護、身体拘束、高齢者の生活の質の向上に関する課題について概説する。ディスカッションを通して、論理的に考える力や他者に伝える表現力を養う。								
授業概要	老年看護を探究するうえでの基盤となる高齢社会の現状について統計調査を基に考察し、そこから見てくる看護課題について検討する。また老年看護の対象である高齢者の特徴と発達課題について教授し、老年期特有の健康課題を抱える高齢者とその家族に対する専門的支援の方法と看護の課題を見出す。具体的には認知症ケア、終末期ケア、介護サービスや家族介護、高齢者看護における倫理的課題としての身体拘束に関する問題など実践例を通して検討し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
到達目標	1.老年看護において解決すべき研究課題を理解する。 2.老年看護領域における研究課題に興味を持ち主体的に探求し考えることができる。 3.老年看護実践に向けて看護の質の向上について自身の考えを述べられる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護師として外科病棟、集中治療室、内科病棟と急性期から慢性期、終末期の看護実践経験を有する。多くの高齢者をケアした実践の中から老年看護において重要課題について教授する。								
学位授与方針	高い倫理観を持ち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	科目ガイダンス 老年看護を取り巻く高齢社会の現状①							
	内容	超高齢社会の現況を数字で確認し老年看護における役割と課題を考える							
第2回	テーマ	老年看護を取り巻く高齢社会の現状②							
	内容	高齢社会の伸展が高齢社会における保健医療福祉に与えた影響を振り返る							
第3回	テーマ	老年看護の対象である高齢者の理解①							
	内容	加齢と老化、加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化と老年期の発達課題、成熟について考える							
第4回	テーマ	老年看護の対象である高齢者の理解②							
	内容	高齢者を理解するための技法としての「回想法」について説明する							
第5回	テーマ	老年看護における倫理的課題①							
	内容	高齢者に対するスティグマ、エイジズムについて内省し、高齢者の権利擁護について考える							
第6回	テーマ	老年看護における倫理的課題②							
	内容	高齢者虐待の現状を理解するとともに臨床における「身体拘束」の問題について検討する							
第7回	テーマ	認知症ケア概論①							
	内容	認知症に関する基礎知識を確認し老年看護における認知症ケアの重要性を考察する							
第8回	テーマ	認知症ケア概論②							
	内容	臨床における認知症ケアの現状と課題をディスカッションしその課題を検討する							
第9回	テーマ	新しい認知症ケア理論①							
	内容	認知症ケア「ユマニチュード」の基礎知識を教授する(おもにその哲学)							
第10回	テーマ	新しい認知症ケア理論②							
	内容	認知症ケア「ユマニチュード」の基礎知識を教授する(おもにその実践)							
第11回	テーマ	生活の場における老年看護の課題①							
	内容	保健医療福祉施設や居住施設における老年看護の役割と課題について考える							
第12回	テーマ	生活の場における老年看護の課題②							
	内容	治療や介護を必要とする高齢者とその家族を含む援助の在り方をディスカッションする							
第13回	テーマ	老年看護におけるエンドオブライフケア①							
	内容	エンドオブライフの概念と高齢者におけるエンドオブライフケアについて考える							
第14回	テーマ	老年看護におけるエンドオブライフケア②							
	内容	日本人の死生観と高齢者の尊厳を守るための支援についてディスカッションする							
第15回	テーマ	科目のまとめ							
	内容	14回の授業を通して興味関心を深めたテーマについて自己の考えをまとめる							
教科書名	なし								
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユマニチュード入門」本田美和子他 医学書院 2014 ・「ユマニチュードへの道」イヴジネスト他 誠文堂 2022 ・「急性期病院で実現した身体抑制のない看護」小藤幹恵他 日本看護協会出版会 2018 								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	各回の単元に関連する先行研究を検索しどのような研究課題があるのか調べておく								
キーワード	双方向授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	老年看護学特論					担当教員名	中澤明美		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	本科目は、老年看護の基盤となる対象の理解や認知症ケア、終末期ケア、家族介護、身体拘束、高齢者の生活の質の向上に関する課題について概説する。								
授業概要	老年看護を探究するうえでの基盤となる高齢社会の現状について統計調査を基に考察し、そこから見えてくる看護課題について検討する。また老年看護の対象である高齢者の特徴と発達課題について教授し、老年期特有の健康課題を抱える高齢者とその家族に対する専門的支援の方法と看護の課題を見出す。具体的には認知症ケア、終末期ケア、介護サービスや家族介護、高齢者看護における倫理的課題としての身体拘束に関する問題など実践例を通して検討し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
到達目標	1.老年看護において解決すべき研究課題を理解する。 2.老年看護領域における研究課題に興味を持ち主体的に探求し考えることができる。 3.老年看護実践に向けて看護の質の向上について自身の考えを述べられる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護師として外科病棟、集中治療室、内科病棟と急性期から慢性期、終末期の看護実践経験を有する。多くの高齢者をケアした実践の中から老年看護において重要課題について教授する。								
学位授与方針	高い倫理観を持ち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を促進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	科目ガイダンス 老年看護を取り巻く高齢社会の現状①							
	内容	超高齢社会の現況を数字で確認し老年看護における役割と課題を考える							
第2回	テーマ	老年看護を取り巻く高齢社会の現状②							
	内容	高齢社会の伸展が高齢社会における保健医療福祉に与えた影響を振り返る							
第3回	テーマ	老年看護の対象である高齢者の理解①							
	内容	加齢と老化、加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化と老年期の発達課題、成熟について考える							
第4回	テーマ	老年看護の対象である高齢者の理解②							
	内容	高齢者を理解するための技法としての「回想法」について説明する							
第5回	テーマ	老年看護における倫理的課題①							
	内容	高齢者に対するスティグマ、エイジズムについて内省し、高齢者の権利擁護について考える							
第6回	テーマ	老年看護における倫理的課題②							
	内容	高齢者虐待の現状を理解するとともに臨床における「身体拘束」の問題について検討する							
第7回	テーマ	認知症ケア概論①							
	内容	認知症に関する基礎知識を確認し老年看護における認知症ケアの重要性を考察する							
第8回	テーマ	認知症ケア概論②							
	内容	臨床における認知症ケアの現状と課題をディスカッションしその課題を検討する							
第9回	テーマ	新しい認知症ケア理論①							
	内容	認知症ケア「ユマニチュード」の基礎知識を教授する(おもにその哲学)							
第10回	テーマ	新しい認知症ケア理論②							
	内容	認知症ケア「ユマニチュード」の基礎知識を教授する(おもにその実践)							
第11回	テーマ	生活の場における老年看護の課題①							
	内容	保健医療福祉施設や居住施設における老年看護の役割と課題について考える							
第12回	テーマ	生活の場における老年看護の課題②							
	内容	治療や介護を必要とする高齢者とその家族を含む援助の在り方をディスカッションする							
第13回	テーマ	老年看護におけるエンドオブライフケア①							
	内容	エンドオブライフの概念と高齢者におけるエンドオブライフケアについて考える							
第14回	テーマ	老年看護におけるエンドオブライフケア②							
	内容	日本人の死生観と高齢者の尊厳を守るための支援についてディスカッションする							
第15回	テーマ	科目のまとめ							
	内容	14回の授業を通して興味関心を深めたテーマについて自己の考えをまとめる							
教科書名	なし								
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユマニチュード入門」本田美和子他 医学書院 2014 ・「ユマニチュードへの道」イヴジネスト他 誠文堂 2022 ・「急性期病院で実現した身体抑制のない看護」小藤幹恵他 日本看護協会出版会 2018 								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	なし								
事前・事後学習等	各回の単元に関連する先行研究を検索しどのような研究課題があるのか調べておく								
キーワード	双方向授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	老年看護学演習					担当教員名	中澤明美、山下菜穂子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	老年看護が抱える様々な看護課題、研究課題に関する国内外の先行研究を検討し、論文クリティークの力を養うと共に自己の研究課題を明らかにする。明らかにした研究課題をディスカッションすることによって、論理的思考力を醸成する。								
授業概要	高齢者の特徴、健康問題と健康の維持・増進、疾病予防と管理、老年看護の看護課題としての認知症ケア、終末期ケア、倫理的課題としての身体拘束など、老年看護が抱える様々な看護課題に関する国内外の先行文献を検討し、論文クリティークの力を培う。そこから、自己の研究課題と研究方法を見出し、研究計画作成の基礎的能力を養う。また、関連する学会への参加を通し最新の老年看護の課題を把握するとともに知見を深め今後の課題を明らかにする。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								共同	
到達目標	1.老年看護に関する研究の動向を理解する。 2.老年看護に関する論文を検討し、論文クリティークの力を養う。 3.自己の老年看護研究課題を見出し、研究計画の方向性を示せる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護師として外科病棟、集中治療室、内科病棟と急性期から慢性期、終末期の看護実践経験を有する。多くの高齢者をケアした実践の中から老年看護において重要課題について教授する。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	科目ガイダンス 老年看護における様々な看護課題、研究課題①							
	内容	批判的吟味(クリティーク)について理解する							
第2回	テーマ	老年看護における様々な看護課題、研究課題②							
	内容	興味関心のある研究課題についてディスカッションし研究テーマになりうるのか検討する							
第3回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する①							
	内容	過去5年間の「老年看護学」学会誌を精読し研究課題の動向を把握する							
第4回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する②							
	内容	過去5年間の「老年看護学」学会誌を精読し研究方法の動向を把握する							
第5回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する③							
	内容	研究課題の動向、研究方法をまとめ今後の老年看護に必要な課題を明確にする							
第6回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する④							
	内容	これまでの過程を通して明らかになったことをプレゼンテーションしディスカッションする							
第7回	テーマ	認知症ケアに関する研究論文を精読する①							
	内容	過去5年間の「日本認知症ケア学会誌」を精読し研究課題の動向を把握する							
第8回	テーマ	認知症ケアに関する研究論文を精読する②							
	内容	過去5年間の「日本認知症ケア学会誌」を精読し研究方法の動向を把握する							
第9回	テーマ	高齢者虐待に関する研究論文を精読する①							
	内容	過去5年間の「高齢者虐待防止研究」を精読し研究課題の動向を把握する							
第10回	テーマ	高齢者虐待に関する研究論文を精読する②							
	内容	過去5年間の「高齢者虐待防止研究」を精読し研究方法の動向を把握する							
第11回	テーマ	老年看護学研究に関する文献レビュー①							
	内容	要約表を作成する							
第12回	テーマ	老年看護学研究に関する文献レビュー②							
	内容	文献を統合し解釈する							
第13回	テーマ	私の老年看護「研究課題」①							
	内容	自己の研究課題を明確にして研究計画書を作成する							
第14回	テーマ	私の老年看護「研究課題」②							
	内容	研究計画書についてプレゼンテーションしディスカッションする							
第15回	テーマ	科目のまとめ							
	内容	意見交換を通して研究計画書を修正し研究計画を確定する							
教科書名	なし								
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本老年看護学学会誌 ・高齢者虐待防止研究 ・日本認知症ケア学会誌 								
評価方法	最終課題レポート(60%)、授業でのディスカッションの参加、プレゼンテーション(40%)								
履修について	前期の「老年看護学特論」を履修していること								
事前・事後学習等	各回のテーマに関してディスカッションできるように準備して演習に参加する								
キーワード	双方向授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	老年看護学演習					担当教員名	中澤明美、山下菜穂子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	老年看護が抱える様々な看護課題、研究課題に関する国内外の先行研究を検討し、論文クリティークの力を養うと共に自己の研究課題を明らかにする。								
授業概要	高齢者の特徴、健康問題と健康の維持・増進、疾病予防と管理、老年看護の看護課題としての認知症ケア、終末期ケア、倫理的課題としての身体拘束など、老年看護が抱える様々な看護課題に関する国内外の先行文献を検討し、論文クリティークの力を培う。そこから、自己の研究課題と研究方法を見出し、研究計画作成の基礎的能力を養う。また、関連する学会への参加を通し最新の老年看護の課題を把握するとともに知見を深め今後の課題を明らかにする。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) 共同	
到達目標	1.老年看護に関する研究の動向を理解する。 2.老年看護に関する論文を検討し、論文クリティークの力を養う。 3.自己の老年看護研究課題を見出し、研究計画の方向性を示せる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	看護師として外科病棟、集中治療室、内科病棟と急性期から慢性期、終末期の看護実践経験を有する。多くの高齢者をケアした実践の中から老年看護において重要課題について教授する。								
学位授与方針	高い倫理観を持ち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を促進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	科目ガイダンス 老年看護における様々な看護課題、研究課題①							
	内容	批判的吟味(クリティーク)について理解する							
第2回	テーマ	老年看護における様々な看護課題、研究課題②							
	内容	興味関心のある研究課題についてディスカッションし研究テーマになりうるのか検討する							
第3回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する①							
	内容	過去5年間の「老年看護学」学会誌を精読し研究課題の動向を把握する							
第4回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する②							
	内容	過去5年間の「老年看護学」学会誌を精読し研究方法の動向を把握する							
第5回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する③							
	内容	研究課題の動向、研究方法をまとめ今後の老年看護に必要な課題を明確にする							
第6回	テーマ	老年看護学に関する研究論文を精読する④							
	内容	これまでの過程を通して明らかになったことをプレゼンテーションしディスカッションする							
第7回	テーマ	認知症ケアに関する研究論文を精読する①							
	内容	過去5年間の「日本認知症ケア学会誌」を精読し研究課題の動向を把握する							
第8回	テーマ	認知症ケアに関する研究論文を精読する②							
	内容	過去5年間の「日本認知症ケア学会誌」を精読し研究方法の動向を把握する							
第9回	テーマ	高齢者虐待に関する研究論文を精読する①							
	内容	過去5年間の「高齢者虐待防止研究」を精読し研究課題の動向を把握する							
第10回	テーマ	高齢者虐待に関する研究論文を精読する②							
	内容	過去5年間の「高齢者虐待防止研究」を精読し研究方法の動向を把握する							
第11回	テーマ	老年看護学研究に関する文献レビュー①							
	内容	要約表を作成する							
第12回	テーマ	老年看護学研究に関する文献レビュー②							
	内容	文献を統合し解釈する							
第13回	テーマ	私の老年看護「研究課題」①							
	内容	自己の研究課題を明確にして研究計画書を作成する							
第14回	テーマ	私の老年看護「研究課題」②							
	内容	研究計画書についてプレゼンテーションしディスカッションする							
第15回	テーマ	科目のまとめ							
	内容	意見交換を通して研究計画書を修正し研究計画を確定する							
教科書名	なし								
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本老年看護学学会誌 ・高齢者虐待防止研究 ・日本認知症ケア学会誌 								
評価方法	最終課題レポート(60%)、授業でのディスカッションの参加、プレゼンテーション(40%)								
履修について	前期の「老年看護学特論」を履修していること								
事前・事後学習等	各回のテーマに関してディスカッションできるように準備して演習に参加する								
キーワード	双方向授業/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	健康医療政策学特論					担当教員名	豊川智之、河村秋、大久保麻矢		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	健康医療政策学の基本概念について講義を行い、政策決定過程における研究の役割を紹介する。ワークショップ形式による住民参加型政策立案の方法を紹介するとともに、学生によるケーススタディを行う。政策立案ツールの学習により論理的思考プロセスを習得する。								
授業概要	健康医療政策の決定過程について健康医療政策学的視座を理解し、実際の事例を通じて理解を深め、多職種連携・地域包括ケアにおける保健医療政策に貢献しうる能力を身につける。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.健康医療政策の決定過程を理解する。 2.政策と人々への健康影響との関係性を理解する。 3.住民参加型政策立案の方法を学び、多様なステークホルダーと多職種連携手法としてのファシリテーション能力を高める。								
実務経験の有無	無								
実務経験の内容									
学位授与方針	高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	健康医療政策学（豊川）							
	内容	健康医療政策学理論の説明と事例の紹介、ウィンドウ理論を理解する							
第2回	テーマ	優生学と健康増進（豊川）							
	内容	優生思想と優生学、遺伝と環境、個人と社会の健康増進の対比の中から生命倫理と人口政策についてディスカッションする							
第3回	テーマ	産科医療補償制度と脳性麻痺（豊川）							
	内容	脳性麻痺、無過失補償制度について理解し、補償制度と条件設定の倫理的側面についてディスカッションする							
第4回	テーマ	ビッグデータと患者数予測（豊川）							
	内容	患者数予測、信頼区間と予測区間、ナショナルデータベース、レセプトデータの利活用の実際について理解する							
第5回	テーマ	リスクコミュニケーションとリスク選択（豊川）							
	内容	リスク対策における住民の意思の多様性をケースワークから理解し、民意と政策決定過程について理解する							
第6回	テーマ	看護に関する医療経済学的分析（豊川）							
	内容	費用効果分析、費用効用分析について学び、看護におけるヘルステクノロジーアセスメント(HTA)の可能性について議論する							
第7回	テーマ	行動経済学とナッジ理論の公衆衛生学領域への応用（豊川）							
	内容	行動経済学理論について学び、イギリスにおける減塩アプローチなどの国内外における適用事例から今後の可能性について議論する							
第8回	テーマ	母子保健における現在の課題と健康医療政策学的論点整理（河村）							
	内容	健やか親子21、育成基本法、こども家庭庁設置などの施策と現場との繋がりについて事例をもとに議論する							
第9回	テーマ	障害児の家族に対し助産師の視点からの健康医療政策学的論点整理（大久保）							
	内容	療育を含めた育児の実際と健康医療・福祉政策に基づいた支援の乖離について、事例をもとに議論する							
第10回	テーマ	シミュレーションによる健康医療政策学領域への応用（豊川）							
	内容	人口学的シミュレーション、感染症シミュレーション、医師分布のシミュレーションをもとに、政策決定過程への応用について議論する							
第11回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅰ（豊川）							
	内容	関係者分析と問題分析、プロジェクトサイクルマネジメントについて学び、住民参加型の政策立案について議論する							
第12回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅱ（豊川）							
	内容	目的分析、プロジェクトサイクルマネジメントについて学び、住民参加型の政策立案について議論する							
第13回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅲ（豊川）							
	内容	プロジェクトデザインマトリックス、政策評価と持続可能な開発と限界について議論する							
第14回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅳ、ウオンツ・エイブル法、政策立案手法の研究計画への応用（豊川）							
	内容	住民参加型政策立案のその他の方法の紹介、学生のリサーチクエストと研究論文執筆への政策立案手法の応用方法を理解する							
第15回	テーマ	健康医療政策学視座についてのプレゼンテーション（豊川）							
	内容	学生のリサーチクエストにおける健康医療政策学的側面の発表							
教科書名	医療政策集中講義-医療を動かす戦略と実践、東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット、医学書院								
参考図書	Theories of the policy process、Christopher M Weible・Paul A Sabatier、Westview Press システム思考がモノ・コトづくりを変える、稗方 和夫・高橋裕、日経BP								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	公衆衛生学								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	双方向授業/対話型授業/ディスカッション								
備考	なし								

科目名	健康医療政策学特論					担当教員名	豊川智之、河村秋、大久保麻矢		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	健康医療政策学の基本概念について講義を行い、政策決定過程における研究の役割を紹介する。ワークショップ形式による住民参加型政策立案の方法を紹介するとともに、学生によるケーススタディを行う。								
授業概要	健康医療政策の決定過程について健康医療政策学的視座を理解し、実際の事例を通じて理解を深め、多職種連携・地域包括ケアにおける保健医療政策に貢献しうる能力を身につける。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
							オムニバス方式		
到達目標	1.健康医療政策の決定過程を理解する。 2.政策と人々への健康影響との関係性を理解する。 3.住民参加型政策立案の方法を学び、多様なステークホルダーと多職種連携手法としてのファシリテーション能力を高める。								
実務経験の有無	無								
実務経験の内容									
学位授与方針	ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	健康医療政策学（豊川）							
	内容	健康医療政策学理論の説明と事例の紹介、ウインドウ理論							
第2回	テーマ	優生学と健康増進（豊川）							
	内容	優生思想と優生学、遺伝と環境、個人と社会の健康増進							
第3回	テーマ	産科医療補償制度と脳性麻痺（豊川）							
	内容	産科医療補償制度、医療へのアクセス、脳性麻痺、無過失補償制度							
第4回	テーマ	ビッグデータと患者数予測（豊川）							
	内容	患者数予測、信頼区間と予測区間、ナショナルデータベース、レセプトデータ							
第5回	テーマ	リスクコミュニケーションとリスク選択（豊川）							
	内容	リスク対策における							
第6回	テーマ	看護に関する医療経済学的分析（豊川）							
	内容	ヘルステクノロジーアセスメント(HTA)、費用効果分析、費用効用分析							
第7回	テーマ	行動経済学とナッジ理論の公衆衛生学領域への応用（豊川）							
	内容	行動経済学理論、イギリスにおける減塩アプローチ、国内における適用事例							
第8回	テーマ	母子保健における現在の課題と健康医療政策学的論点整理（河村）							
	内容	健やか親子21、成育基本法、こども家庭庁設置などの施策と現場との繋がりについて事例をもとにディスカッションする							
第9回	テーマ	障害児の家族に対し助産師の視点からの健康医療政策学的論点整理（大久保）							
	内容	療育を含めた育児の実際と健康医療・福祉政策に基づいた支援の乖離について、事例をもとにディスカッションする							
第10回	テーマ	シミュレーションによる健康医療政策学領域への応用（豊川）							
	内容	人口学的シミュレーション、感染症シミュレーション、医師分布のシミュレーション							
第11回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅰ（豊川）							
	内容	関係者分析と問題分析、プロジェクトサイクルマネジメント							
第12回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅱ（豊川）							
	内容	目的分析、プロジェクトサイクルマネジメント							
第13回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅲ（豊川）							
	内容	プロジェクトデザインマトリックス、政策評価と持続可能な開発と限界について							
第14回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅳ、ウォンツ・エイブル法、政策立案手法の研究計画への応用（豊川）							
	内容	住民参加型政策立案のその他の方法の紹介、学生のリサーチクエストと研究論文執筆への政策立案手法の応用方法							
第15回	テーマ	健康医療政策学視座についてのプレゼンテーション（豊川）							
	内容	学生のリサーチクエストにおける健康医療政策学的側面の発表							
教科書名	医療政策集中講義-医療を動かす戦略と実践、東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット、医学書院								
参考図書	Theories of the policy process、Christopher M Weible・Paul A Sabatier、Westview Press システム思考がモノ・コトづくりを変える、稗方和夫・高橋裕、日経BP								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	公衆衛生学								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	双方向授業/対話型授業/ディスカッション								
備考	なし								

科目名	健康医療政策学演習					担当教員名	豊川智之		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	健康医療政策学特論で学習した内容を深く理解するために、データ分析や論文・テキスト抄読・ワークショップ演習を行う。政策に係わる複合的な要素について理解をもとに、論理的な思考を高める。								
授業概要	政策の最終受益者である住民をはじめ各ステークホルダーへの調査方法や、それを基にした政策決定から評価、修正までの各サイクルを演習する。政策決定過程に必要な統計値の推定についての理論や手技について統計学的演習を行う。政策立案に必要な文献レビュー、記者会見などのシミュレーションを行い、政策に係わる複合的な要素について理解を深める。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								—	
到達目標	1.健康医療政策の決定過程を理解する。 2.政策と人々への健康影響との関係性を理解する。 3.住民参加型政策立案の方法を学び、多様なステークホルダーと多職種連携手法としてのファシリテーション能力を高める。 4.アプリケーションを用いた分析能力を高める。								
実務経験の有無	無								
実務経験の内容									
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	健康医療政策学とは							
	内容	健康医療政策学のテキスト抄読							
第2回	テーマ	優生学と健康増進							
	内容	優生思想と優生学についてのテキスト抄読							
第3回	テーマ	産科医療補償制度と脳性麻痺							
	内容	脳性麻痺のリスクに関する論文抄読							
第4回	テーマ	ビッグデータと健康医療政策学							
	内容	予測区間に関するテキスト抄読							
第5回	テーマ	システム思考に基づいた健康医療政策学的分析							
	内容	システムダイナミクス演習							
第6回	テーマ	看護に関する医療経済学的分析							
	内容	医療経済学的分析のテキスト抄読							
第7回	テーマ	行動経済学とナッジ理論の公衆衛生学領域への応用							
	内容	行動経済学理論のテキスト抄読							
第8回	テーマ	シミュレーションによる健康医療政策学領域への応用							
	内容	感染症シミュレーション演習							
第9回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅰ							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第10回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅱ							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第11回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅲ							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第12回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅳ、プロジェクトサイクルマネジメント、プロジェクトデザインマトリックス							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第13回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅴ、ウォンツ・エイブル法							
	内容	ウォンツエイブル演習							
第14回	テーマ	政策立案手法の研究計画への応用							
	内容	政策立案手法の研究計画への応用演習							
第15回	テーマ	健康医療政策学的手技の応用							
	内容	本演習内で紹介した手技を自身の研究に応用する							
教科書名	医療政策集中講義-医療を動かす戦略と実践、東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット、医学書院								
参考図書	Theories of the policy process、Christopher M Weible・Paul A Sabatier、Westview Press システム思考がモノ・コトづくりを変える、稗方 和夫・高橋裕、日経BP								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	公衆衛生学特論								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	双方向授業/対話型授業/ディスカッション								
備考	なし								

科目名	健康医療政策学演習					担当教員名	豊川智之		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	健康医療政策学特論で学習した内容を深く理解するために、データ分析や論文・テキスト抄読・ワークショップ演習を行う。								
授業概要	政策の最終受益者である住民をはじめ各ステークホルダーへの調査方法や、それを基にした政策決定から評価、修正までの各サイクルを演習する。政策決定過程に必要な統計値の推定についての理論や手技について統計学的演習を行う。政策立案に必要な文献レビュー、記者会見などのシミュレーションを行い、政策に係わる複合的な要素について理解を深める。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
到達目標	1.健康医療政策の決定過程を理解する。 2.政策と人々への健康影響との関係性を理解する。 3.住民参加型政策立案の方法を学び、多様なステークホルダーと多職種連携手法としてのファシリテーション能力を高める。 4.アプリケーションを用いた分析能力を高める。								
実務経験の有無	無								
実務経験の内容									
学位授与方針	ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	健康医療政策学とは							
	内容	健康医療政策学のテキスト抄読							
第2回	テーマ	優生学と健康増進							
	内容	優生思想と優生学についてのテキスト抄読							
第3回	テーマ	産科医療補償制度と脳性麻痺							
	内容	脳性麻痺のリスクに関する論文抄読							
第4回	テーマ	ビッグデータと健康医療政策学							
	内容	予測区間に関するテキスト抄読							
第5回	テーマ	システム思考に基づいた健康医療政策学的分析							
	内容	システムダイナミクス演習							
第6回	テーマ	看護に関する医療経済学的分析							
	内容	医療経済学的分析のテキスト抄読							
第7回	テーマ	行動経済学とナッジ理論の公衆衛生学領域への応用							
	内容	行動経済学理論のテキスト抄読							
第8回	テーマ	シミュレーションによる健康医療政策学領域への応用							
	内容	感染症シミュレーション演習							
第9回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅰ							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第10回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅱ							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第11回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅲ							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第12回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅳ、プロジェクトサイクルマネジメント、プロジェクトデザインマトリックス							
	内容	プロジェクトサイクルマネジメント演習							
第13回	テーマ	住民参加型政策立案Ⅴ、ウォンツ・エイブル法							
	内容	ウォンツエイブル演習							
第14回	テーマ	政策立案手法の研究計画への応用							
	内容	政策立案手法の研究計画への応用演習							
第15回	テーマ	健康医療政策学的手技の応用							
	内容	本演習内で紹介した手技を自身の研究に応用する							
教科書名	医療政策集中講義-医療を動かす戦略と実践、東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット、医学書院								
参考図書	Theories of the policy process、Christopher M Weible・Paul A Sabatier、Westview Press システム思考がモノ・コトづくりを変える、稗方知夫・高橋裕、日経BP								
評価方法	講義内プレゼンテーションの内容(50%)、講義内のディスカッションにおける質疑内容(50%)								
履修について	公衆衛生学特論								
事前・事後学習等	1.5時間・講義内で示された論文の抄読								
キーワード	双方向授業/対話型授業/ディスカッション								
備考	なし								

科目名	ウイメンズヘルス看護学特論					担当教員名	久保幸代		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	女性のライフステージ全般における健康支援とリプロダクティブヘルスケアに関する概念や理論を理解し、女性の健康課題と健康支援システムを探求する。相互討論を通して、論理的思考力を育む。								
授業概要	ウイメンズヘルスケアの歴史の変遷や役割について理解し、様々な概念や理論について教授する。女性のライフステージ全般(思春期・成熟期・更年期・老年期)にわたる健康問題及び周産期における母子やその家族の健康支援について理解し、対象のニーズに合わせた支援の在り方を科学的根拠に基づいて探究する。教授方法は、講義形式を中心に一部学生のプレゼンテーションやディスカッションも取り入れた双方向授業を展開する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
到達目標	1.女性のライフステージ全般に関する健康支援とリプロダクティブヘルスケアに関する概念や理論を説明できる。 2.ウイメンズヘルスに関する歴史・法制度の変遷、国際的な動向から現行の支援システムについて考察できる。 3.各ライフステージにおける健康課題を把握し、課題解決のための支援システムを検討し記述できる。							—	
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	助産師として産婦人科病棟・外来などでの実務経験があり、本講義で教授するウイメンズヘルスの基礎的知識・技術を備え、指導するための能力をもっている。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	コースガイダンス、ウイメンズヘルスにかかわる概念・理論①							
	内容	ウイメンズヘルスにかかわる主要な概念・理論(リプロダクティブ・ヘルス、セクシュアリティ、ウェルネス、エンパワメント)(講義・討論)							
第2回	テーマ	ウイメンズヘルスにかかわる概念・理論②							
	内容	ウイメンズヘルスにかかわる概念・理論(リプロダクティブ・ヘルス、セクシュアリティ、ウェルネス、エンパワメント)(発表・討論)							
第3回	テーマ	女性の健康を取り巻く歴史の変遷と現状							
	内容	女性の健康を取り巻くわが国の歴史の変遷と現状について(発表・討論)							
第4回	テーマ	女性の健康を取り巻く法制度							
	内容	女性の健康を取り巻く法制度と政策について(発表・討論)							
第5回	テーマ	女性のライフサイクルにおける特徴							
	内容	女性のライフサイクル各期における特徴(発表・討論)							
第6回	テーマ	女性のライフサイクルにおける健康支援							
	内容	女性のライフサイクルにおける健康支援(健康相談、健康教育、意思決定支援)(発表・討論)							
第7回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援①							
	内容	思春期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第8回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援②							
	内容	成熟期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第9回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援③							
	内容	更年期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第10回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援④							
	内容	老年期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第11回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題①							
	内容	国際社会におけるリプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題(発表・討論)							
第12回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題②							
	内容	わが国におけるリプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題(発表・討論)							
第13回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する支援システム①							
	内容	リプロダクティブ・ヘルスに関する課題解決のための政策と支援システム(講義・討論)							
第14回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する支援システム②							
	内容	リプロダクティブ・ヘルスに関する課題解決のための政策と支援システム(発表・討論)							
第15回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する支援システム③							
	内容	リプロダクティブ・ヘルスに関する課題解決のための支援システムの変革と政策提言(発表・討論)							
教科書名	特に指定なし 講義時に資料を配布する								
参考図書	適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーションおよび資料作成(50%)、討論(50%)から総合的に評価する								
履修について	事前準備はガイダンスの際に説明する								
事前・事後学習等	各授業について予習90分、復習90分を目安とする								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	ウイメンズヘルス看護学特論					担当教員名	久保幸代		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	女性のライフステージ全般における健康支援とリプロダクティブヘルスケアに関する概念や理論を理解し、女性の健康課題と健康支援システムを探究する。								
授業概要	ウイメンズヘルスケアの歴史の変遷や役割について理解し、様々な概念や理論について教授する。女性のライフステージ全般(思春期・成熟期・更年期・老年期)にわたる健康問題及び周産期における母子やその家族の健康支援について理解し、対象のニーズに合わせた支援の在り方を科学的根拠に基づいて探究する。教授方法は、講義形式を中心に一部学生のプレゼンテーションやディスカッションも取り入れた双方向授業を展開する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
到達目標	1.女性のライフステージ全般に関する健康支援とリプロダクティブヘルスケアに関する概念や理論を説明できる。 2.ウイメンズヘルスに関する歴史・法制度の変遷、国際的な動向から現行の支援システムについて考察できる。 3.各ライフステージにおける健康課題を把握し、課題解決のための支援システムを検討し記述できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	助産師として産婦人科病棟・外来などでの実務経験があり、本講義で教授するウイメンズヘルスの基礎的知識・技術を備え、指導するための能力をもっている。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探究する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	コースガイダンス、ウイメンズヘルスにかかわる概念・理論①							
	内容	ウイメンズヘルスにかかわる主要な概念・理論(リプロダクティブ・ヘルス、セクシュアリティ、ウェルネス、エンパワメント)(講義・討論)							
第2回	テーマ	ウイメンズヘルスにかかわる概念・理論②							
	内容	ウイメンズヘルスにかかわる概念・理論(リプロダクティブ・ヘルス、セクシュアリティ、ウェルネス、エンパワメント)(発表・討論)							
第3回	テーマ	女性の健康を取り巻く歴史の変遷と現状							
	内容	女性の健康を取り巻くわが国の歴史の変遷と現状について(発表・討論)							
第4回	テーマ	女性の健康を取り巻く法制度							
	内容	女性の健康を取り巻く法制度と政策について(発表・討論)							
第5回	テーマ	女性のライフサイクルにおける特徴							
	内容	女性のライフサイクル各期における特徴(発表・討論)							
第6回	テーマ	女性のライフサイクルにおける健康支援							
	内容	女性のライフサイクルにおける健康支援(健康相談、健康教育、意思決定支援)(発表・討論)							
第7回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援①							
	内容	思春期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第8回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援②							
	内容	成熟期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第9回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援③							
	内容	更年期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第10回	テーマ	女性のライフサイクル各期における健康課題と健康支援④							
	内容	老年期における健康課題と健康支援(発表・討論)							
第11回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題①							
	内容	国際社会におけるリプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題(発表・討論)							
第12回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題②							
	内容	わが国におけるリプロダクティブ・ヘルスに関する現状と課題(発表・討論)							
第13回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する支援システム①							
	内容	リプロダクティブ・ヘルスに関する課題解決のための政策と支援システム(講義・討論)							
第14回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する支援システム②							
	内容	リプロダクティブ・ヘルスに関する課題解決のための政策と支援システム(発表・討論)							
第15回	テーマ	リプロダクティブ・ヘルスに関する支援システム③							
	内容	リプロダクティブ・ヘルスに関する課題解決のための支援システムの変革と政策提言(発表・討論)							
教科書名	特に指定なし 講義時に資料を配布する								
参考図書	適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーションおよび資料作成(50%)、討論(50%)から総合的に評価する								
履修について	事前準備はガイダンスの際に説明する								
事前・事後学習等	各授業について予習90分、復習90分を目安とする								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	ウイメンズヘルス看護学演習					担当教員名	久保幸代、大久保麻矢		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	周産期の母子とその家族、各ライフステージにある女性とその家族の状況を理解し、ウイメンズヘルスケアに必要なアセスメントとエビデンスに基づく効果的な支援について考察する。討論を通して、よりよい支援に結びつための論理的思考力を強化する。								
授業概要	女性のライフステージについてリプロダクティブヘルス・ライツの視点で診ること、各ステージの健康課題や周産期の健康について生じる現象および対象について理解を深められるように教授する。周産期においては、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各期に起こる健康課題について理解を深めるとともに、出生前診断や生殖補助医療など周産期医療体制や医療倫理の課題の探究能力を養う。授業方式は国内外の著書や論文をもとにテーマに基づき教員と学生のプレゼンテーションとディスカッションにより構成し、学生の診断能力及び問題解決能力を養うことを目指す。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								共同	
到達目標	1.周産期の母子とその家族、各ライフステージにある女性とその家族における健康課題を記述できる。 2.選定した健康課題について文献を用いて分析し、記述できる。 3.選定した健康課題に関する支援や教育・相談などエビデンスに基づく効果的な支援方法を記述できる。 4.選定した健康課題に関する支援方法の評価について検討し、記述できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	助産師として産婦人科病棟・外来などでの実務経験があり、本講義で教授するウイメンズヘルスの基礎的知識・技術を備え、指導するための能力をもっている。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	ガイダンス、ウイメンズヘルスケアにおけるエビデンス①							
	内容	周産期の母子とその家族、各ライフステージにある女性へのケアに関するエビデンスについて(講義・討論)							
第2回	テーマ	ウイメンズヘルスケアにおけるエビデンス②							
	内容	ウイメンズヘルスケアに関するガイドラインについて(発表・討論)							
第3回	テーマ	ウイメンズヘルスケアにおけるエビデンス③							
	内容	ウイメンズヘルスケアに関する文献レビューについて(発表・討論)							
第4回	テーマ	ウイメンズヘルスケアの実際①							
	内容	ウイメンズヘルスケア実践における倫理的課題(発表・討論)							
第5回	テーマ	ウイメンズヘルスケアの実際②							
	内容	女性を中心としたケア(Women's centered care)、家族を中心としたケア(Family centered care)(発表・討論)							
第6回	テーマ	ウイメンズヘルスケアの実際③							
	内容	ハイリスクな状況にある女性へのケア(発表・討論)							
第7回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア①							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題の明確化(講義・討論)							
第8回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア②							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題の明確化(発表・討論)							
第9回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア③							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを探る(講義・討論)							
第10回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア④							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを探る(発表・討論)							
第11回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑤							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを統合する(講義・討論)①							
第12回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑥							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを統合する(発表・討論)②							
第13回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑦							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するエビデンスに基づくケアの実践と評価(講義・討論)							
第14回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑧							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するエビデンスに基づくケアの実践と評価(発表・討論)							
第15回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑨							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するエビデンスに基づくケア まとめ(発表・討論)							
教科書名	特に指定なし								
参考図書	適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーションと資料(50%)、討論(50%)で総合的に評価する								
履修について	事前準備はガイダンスの際に説明する。ウイメンズヘルス看護学特論を履修していることを前提とする								
事前・事後学習等	各授業について予習90分、復習90分を目安とする								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/フィールドワーク								
備考	なし								

科目名	ウイメンズヘルス看護学演習					担当教員名	久保幸代、大久保麻矢		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	周産期の母子とその家族、各ライフステージにある女性とその家族の状況を理解し、ウイメンズヘルスケアに必要なアセスメントとエビデンスに基づく効果的な支援について考察する。								
授業概要	女性のライフステージについてリプロダクティブヘルス・ライツの視点で診ること、各ステージの健康課題や周産期の健康について生じる現象および対象について理解を深められるように教授する。周産期においては、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各期に起こる健康課題について理解を深めるとともに、出生前診断や生殖補助医療など周産期医療体制や医療倫理の課題の探究能力を養う。授業方式は国内外の著書や論文をもとにテーマに基づき教員と学生のプレゼンテーションとディスカッションにより構成し、学生の診断能力及び問題解決能力を養うことを目指す。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) 共同	
到達目標	1.周産期の母子とその家族、各ライフステージにある女性とその家族における健康課題を記述できる。 2.選定した健康課題について文献を用いて分析し、記述できる。 3.選定した健康課題に関する支援や教育・相談などエビデンスに基づく効果的な支援方法を記述できる。 4.選定した健康課題に関する支援方法の評価について検討し、記述できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	助産師として産婦人科病棟・外来などでの実務経験があり、本講義で教授するウイメンズヘルスの基礎的知識・技術を備え、指導するための能力をもっている。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	ガイダンス、ウイメンズヘルスケアにおけるエビデンス①							
	内容	周産期の母子とその家族、各ライフステージにある女性へのケアに関するエビデンスについて(講義・討論)							
第2回	テーマ	ウイメンズヘルスケアにおけるエビデンス②							
	内容	ウイメンズヘルスケアに関するガイドラインについて(発表・討論)							
第3回	テーマ	ウイメンズヘルスケアにおけるエビデンス③							
	内容	ウイメンズヘルスケアに関する文献レビューについて(発表・討論)							
第4回	テーマ	ウイメンズヘルスケアの実際①							
	内容	ウイメンズヘルスケア実践における倫理的課題(発表・討論)							
第5回	テーマ	ウイメンズヘルスケアの実際②							
	内容	女性を中心としたケア(Women's centered care)、家族を中心としたケア(Family centered care)(発表・討論)							
第6回	テーマ	ウイメンズヘルスケアの実際③							
	内容	ハイリスクな状況にある女性へのケア(発表・討論)							
第7回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア①							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題の明確化(講義・討論)							
第8回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア②							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題の明確化(発表・討論)							
第9回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア③							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを探る(講義・討論)							
第10回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア④							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを探る(発表・討論)							
第11回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑤							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを統合する(講義・討論)①							
第12回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑥							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するケアのエビデンスを統合する(発表・討論)②							
第13回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑦							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するエビデンスに基づくケアの実践と評価(講義・討論)							
第14回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑧							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するエビデンスに基づくケアの実践と評価(発表・討論)							
第15回	テーマ	ウイメンズヘルスに関するエビデンスに基づくケア⑨							
	内容	周産期の母子とその家族や各ライフステージにある女性とその家族の健康課題に対するエビデンスに基づくケア まとめ(発表・討論)							
教科書名	特に指定なし								
参考図書	適宜紹介する								
評価方法	プレゼンテーションと資料(50%)、討論(50%)で総合的に評価する								
履修について	事前準備はガイダンスの際に説明する。ウイメンズヘルス看護学特論を履修していることを前提とする								
事前・事後学習等	各授業について予習90分、復習90分を目安とする								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/フィールドワーク								
備考	なし								

科目名	精神看護学特論					担当教員名	金子眞理子、小川朝生、加藤星花、宮本眞巳		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	精神看護において対象理解のためのさまざまな理論とDSM-5にもとづいた多軸診断の考え方、精神科診断としてのアセスメント方法と対応について学習する。精神医療福祉の現状と課題について学習し、精神障害を持つ人々や家族のリカバリーを支える支援や支援システムについて学習する。相互討議を行うことで、論理的思考を育む。								
授業概要	精神看護における高度実践の基盤となる精神状態のアセスメントと、精神分析理論、対象関係論、セルフケア理論など、対象理解のための理論を学ぶ。さらに、看護理論の具体的展開方法と援助関係の実践について討議し、援助者としてのあり方とストレングスを高めるための支援について考究する。メンタルヘルスの現状と課題を探索し、効果的な地域包括ケアシステムの在り方を考究する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.精神疾患や精神状態を精神疾患の診断基準をもとに適切にアセスメントする方法について説明できる。 2.精神看護・対象理解のための理論について説明することができる。 3.精神看護ケアに必要なアセスメントと理論を統合し、援助者としてのあり方と具体的援助の展開方法について説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	精神看護専門看護師として大学病院や総合病院での実践を有する。、地域ではリワークディケアでの心理教育の実践、学校保健では公認心理師としての実務経験を有する。精神看護専門看護師や公認心理師の実務経験をもとに講義、指導を行う。								
学位授与方針	高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	精神症状評価、従来診断・操作的診断 (小川)							
	内容	精神症状評価と従来診断・操作的診断の基本について概説する							
第2回	テーマ	器質疾患の診断と治療の基礎 (小川)							
	内容	精神医学における器質的診断と治療の基礎について概説する							
第3回	テーマ	統合失調症スペクトラム障害の診断と治療の基礎 (小川)							
	内容	統合失調症スペクトラム障害の診断と治療の基礎について精神科医学の立場から概説する							
第4回	テーマ	双極性障害、抑うつ障害の診断と治療の基礎と看護 (小川)							
	内容	双極性障害、抑うつ障害の診断と治療の基礎について精神医学の立場から概説する							
第5回	テーマ	発達障害のアセスメントと支援 (加藤)							
	内容	発達障害および二次障害のアセスメントと効果的な支援について討議する							
第6回	テーマ	高度実践看護と教育における精神症状評価 (金子)							
	内容	高度実践看護と教育における精神症状評価について討議する							
第7回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(1) (金子)							
	内容	精神分析とカウンセリングの歴史的変遷について概説し、関連する理論の位置づけについて討議する							
第8回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(2) (金子)							
	内容	対象関係論、愛着理論について概説し精神看護の対象理解の観点から討議する							
第9回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(3) (金子)							
	内容	セルフケア理論について概説し精神看護の対象理解の観点から討議する							
第10回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(4) (金子)							
	内容	認知行動療法の考え方マインドフルネスの考え方と具体的介入技法を学ぶ							
第11回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(5) (金子)							
	内容	精神看護におけるコンサルテーション論の実際について概説する							
第12回	テーマ	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法(1) (宮本、金子)							
	内容	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法について討議する							
第13回	テーマ	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法(2) (宮本、金子)							
	内容	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法について討議する							
第14回	テーマ	精神看護における地域包括支援システムの現状と課題 (金子、加藤)							
	内容	精神看護における地域包括支援システムの現状と課題について討議する							
第15回	テーマ	精神看護学領域における倫理的課題の探求とまとめ (金子、加藤)							
	内容	精神症状評価と看護理論及び精神医療における倫理的課題、援助者としての自己洞察について討議する							
教科書名	野末聖香, リエゾン精神看護, 医歯薬出版 2004 DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 American Psychiatric Association 2014								
参考図書	高橋 三郎他, DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会, 2014								
評価方法	講義参加態度20%、プレゼンテーションと討議20%、レポート60%								
履修について	別途提示する								
事前・事後学習等	講義内容について資料を作成する。講義後の学習についてはその都度提示する								
キーワード	双方向授業／対話型授業／ディスカッション／プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	精神看護学特論					担当教員名	金子真理子、小川朝生、加藤星花、宮本眞巳		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	精神看護において対象理解のためのさまざまな理論とDSM-5にもとづいた多軸診断の考え方、精神科診断としてのアセスメント方法と対応について学習する。精神医療福祉の現状と課題について学習し、精神障害を持つ人々や家族のリカバリーを支える支援や支援システムについて学習する。								
授業概要	精神看護における高度実践の基盤となる精神状態のアセスメントと、精神分析理論、対象関係論、セルフケア理論など、対象理解のための理論を学ぶ。さらに、看護理論の具体的展開方法と援助関係の実践について討議し、援助者としてのあり方とストレングスを高めるための支援について考究する。メンタルヘルスの現状と課題を探索し、効果的な地域包括ケアシステムの在り方を考究する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.精神疾患や精神状態を精神疾患の診断基準をもとに適切にアセスメントする方法について説明できる。 2.精神看護・対象理解のための理論について説明することができる。 3.精神看護ケアに必要なアセスメントと理論を統合し、援助者としてのあり方と具体的援助の展開方法について説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	精神看護専門看護師として大学病院や総合病院での実践を有する。、地域ではリワークディケアでの心理教育の実践、学校保健では公認心理師としての実務経験を有する。精神看護専門看護師や公認心理師の実務経験をもとに講義、指導を行う。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	精神症状評価、従来診断・操作的診断 (小川)							
	内容	精神症状評価と従来診断・操作的診断の基本について概説する							
第2回	テーマ	器質疾患の診断と治療の基礎 (小川)							
	内容	精神医学における器質的診断と治療の基礎について概説する							
第3回	テーマ	統合失調症スペクトラム障害の診断と治療の基礎 (小川)							
	内容	統合失調症スペクトラム障害の診断と治療の基礎について精神科医学の立場から概説する							
第4回	テーマ	双極性障害、抑うつ障害の診断と治療の基礎と看護 (小川)							
	内容	双極性障害、抑うつ障害の診断と治療の基礎について精神医学の立場から概説する							
第5回	テーマ	発達障害のアセスメントと支援 (加藤)							
	内容	発達障害および二次障害のアセスメントと効果的な支援について討議する							
第6回	テーマ	高度実践看護と教育における精神症状評価 (金子)							
	内容	高度実践看護と教育における精神症状評価について討議する							
第7回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(1) (金子)							
	内容	精神分析とカウンセリングの歴史的変遷について概説し、関連する理論の位置づけについて討議する							
第8回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(2) (金子)							
	内容	対象関係論、愛着理論について概説し精神看護の対象理解の観点から討議する							
第9回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(3) (金子)							
	内容	セルフケア理論について概説し精神看護の対象理解の観点から討議する							
第10回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(4) (金子)							
	内容	認知行動療法の考え方マインドフルネスの考え方と具体的介入技法を学ぶ							
第11回	テーマ	精神看護に関連する理論モデルの理解(5) (金子)							
	内容	精神看護におけるコンサルテーション論の実際について概説する							
第12回	テーマ	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法(1) (宮本、金子)							
	内容	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法について討議する							
第13回	テーマ	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法(2) (宮本、金子)							
	内容	援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法について討議する							
第14回	テーマ	精神看護における地域包括支援システムの現状と課題 (金子、加藤)							
	内容	精神看護における地域包括支援システムの現状と課題について討議する							
第15回	テーマ	まとめ (金子、加藤)							
	内容	精神症状評価と看護理論及び援助者としての自己洞察について討議する							
教科書名	野末聖香, リエゾン精神看護, 医歯薬出版 2004 DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 American Psychiatric Association 2014								
参考図書	高橋 三郎他, DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会, 2014								
評価方法	講義参加態度20%、プレゼンテーションと討議20%、レポート60%								
履修について	別途提示する								
事前・事後学習等	講義内容について資料を作成する。講義後の学習についてはその都度提示する								
キーワード	双方向授業／対話型授業／ディスカッション／プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	精神看護学演習					担当教員名	金子真理子、加藤星花		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	メンタルヘルスの予防、治療的介入技法について体験を通して介入技術を修得する。精神看護における理論的背景や高度実践に必要な技術を統合し、精神看護を必要とする人々を対象とした研究課題および研究計画を考究する。プレゼンテーションと討議を通して、論理的思考を強化する。								
授業概要	メンタルヘルスの予防、ストレス対処に関する心理教育、コミュニケーションを基盤とした治療的介入技法について体験を通して治療的介入技法を習得する。授業方法は大学院生が主体となり、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れ、理解を深めていく。さらに精神看護に関連する研究テーマを考究するための方法論について教授する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.メンタルヘルスを保つためのストレス対処、コミュニケーションを基盤とした治療的技法について説明することができる。 2.さまざまな理論と具体的介入方法を統合し、精神看護を必要とする人々を対象とした研究課題および研究計画に向けて理解を深めることができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	精神保健福祉の教育や看護専門看護師として大学病院や総合病院での実践を有する。地域ではリワークディケアでの心理教育の実践等の実務経験を有する教員たちが実務経験をもとに講義、指導を行う。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	対応困難な対象者へのリエゾン精神看護について概説する (金子)							
	内容	チーム医療におけるリエゾン精神看護の役割と課題							
第2回	テーマ	サイコオンコロジー分野における精神心理的問題とアセスメントについて概説する (金子)							
	内容	サイコオンコロジー分野における精神心理的問題とトータルペインの観点からのアセスメントとケアについて概説する							
第3回	テーマ	リラクゼーション法、コンパッションフォーカストセラピー、セルフコンパッションの理論と実際 (金子)							
	内容	リラクゼーション法やコンパッションフォーカストセラピー、セルフコンパッションの理論と実際を学び、体験を通して理解を深める							
第4回	テーマ	アサーショントレーニングの理論と高度看護実践に必要なコミュニケーションについて概説する (金子)							
	内容	アサーショントレーニングに潰えた意見を落として理解を深める							
第5回	テーマ	アートセラピー(芸術療法)の理論と実際① (加藤)							
	内容	アートセラピー(芸術療法)の理論と臨床での実際を学び、体験を通して理解を深める							
第6回	テーマ	アートセラピー(芸術療法)の理論と実際② (加藤)							
	内容	アートセラピー(芸術療法)の理論と臨床での実際を学び、体験を通して理解を深める							
第7回	テーマ	精神看護における研究課題① (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して理解を深める							
第8回	テーマ	精神看護における研究課題② (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して理解を深める							
第9回	テーマ	精神看護における研究課題③ (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して課題の焦点を絞る							
第10回	テーマ	精神看護における研究課題④ (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して課題の焦点を絞る							
第11回	テーマ	精神看護における研究課題⑤ (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第12回	テーマ	精神看護における研究課題⑥ (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第13回	テーマ	精神看護における研究課題⑦ (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第14回	テーマ	精神看護における研究課題⑧ (金子)							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第15回	テーマ	まとめ (金子)							
	内容	精神看護に関連したさまざまな理論と介入技法を統合し、今後の研究課題を探索する							
教科書名	別途呈示する								
参考図書	マインドフル・セルフ・コンパッション ワークブック クリスティン・ネフ、クリストファー・ガーマー他、星和書店、2019 内富陽介、小川朝生、精神腫瘍学、医学書院、2011								
評価方法	参加状況10%、プレゼンテーション30%、レポート60%								
履修について	別途呈示する								
事前・事後学習等	各授業回数ごとに事前学習・事後学習90分程度を目安とする								
キーワード	双方向授業／対話型授業／演習／ディスカッション／プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	精神看護学演習					担当教員名	金子真理子、加藤星花		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	メンタルヘルスの予防、治療的介入技法について体験を通して介入技術を修得する。精神看護における理論的背景や高度実践に必要な技術を統合し、精神看護を必要とする人々を対象とした研究課題および研究計画を考究する。								
授業概要	メンタルヘルスの予防、ストレス対処に関する心理教育、コミュニケーションを基盤とした治療的介入技法について体験を通して治療的介入技法を習得する。授業方法は大学院生が主体となり、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れ、理解を深めていく。さらに精神看護に関連する研究テーマを考究するための方法論について教授する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.メンタルヘルスを保つためのストレス対処、コミュニケーションを基盤とした治療的技法について説明することができる。 2.さまざまな理論と具体的介入方法を統合し、精神看護を必要とする人々を対象とした研究課題および研究計画に向けて理解を深めることができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	精神保健福祉の教育や看護専門看護師として大学病院や総合病院での実践を有する。地域ではリワークディケアでの心理教育の実践等の実務経験を有する教員たちが実務経験をもとに講義、指導を行う。								
学位授与方針	高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	対応困難な対象者へのリエゾン精神看護について概説する（金子）							
	内容	チーム医療におけるリエゾン精神看護の役割と課題							
第2回	テーマ	サイコオンコロジー分野における精神心理的問題とアセスメントについて概説する（金子）							
	内容	サイコオンコロジー分野における精神心理的問題とトータルペインの観点からのアセスメントとケアについて概説する							
第3回	テーマ	リラクゼーション法、コンパッションフォーカストセラピー、セルフコンパッションの理論と実際（金子）							
	内容	リラクゼーション法やコンパッションフォーカストセラピー、セルフコンパッションの理論と実際を学び、体験を通して理解を深める							
第4回	テーマ	アサーショントレーニングの理論と高度看護実践に必要なコミュニケーションについて概説する（金子）							
	内容	アサーショントレーニングに潰えた意見を落として理解を深める							
第5回	テーマ	アートセラピー(芸術療法)の理論と実際①（加藤）							
	内容	アートセラピー(芸術療法)の理論と臨床での実際を学び、体験を通して理解を深める							
第6回	テーマ	アートセラピー(芸術療法)の理論と実際②（加藤）							
	内容	アートセラピー(芸術療法)の理論と臨床での実際を学び、体験を通して理解を深める							
第7回	テーマ	精神看護における研究課題①（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して理解を深める							
第8回	テーマ	精神看護における研究課題②（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して理解を深める							
第9回	テーマ	精神看護における研究課題③（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して課題の焦点を絞る							
第10回	テーマ	精神看護における研究課題④（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して課題の焦点を絞る							
第11回	テーマ	精神看護における研究課題⑤（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第12回	テーマ	精神看護における研究課題⑥（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第13回	テーマ	精神看護における研究課題⑦（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第14回	テーマ	精神看護における研究課題⑧（金子）							
	内容	精神看護における研究課題についてプレゼンテーションと討議を通して研究計画を立案する							
第15回	テーマ	まとめ（金子）							
	内容	精神看護に関連したさまざまな理論と介入技法を統合し、今後の研究課題を探求する							
教科書名	別途呈示する								
参考図書	マインドフル・セルフ・コンパッション ワークブック クリスティン・ネフ、クリストファー・ガーマー他、星和書店、2019 内富陽介、小川朝生、精神腫瘍学、医学書院、2011								
評価方法	参加状況10%、プレゼンテーション30%、レポート60%								
履修について	別途呈示する								
事前・事後学習等	各授業回数ごとに事前学習・事後学習90分程度を目安とする								
キーワード	双方向授業／対話型授業／演習／ディスカッション／プレゼンテーション								
備考	なし								

科目名	産業看護学特論					担当教員名	新谷奈苗、麻生保子		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	産業保健・産業看護を展開するためのシステムについて理解し、より良いシステム形成のあり方について概説する。相互討議をすることによって、論理的思考を高める。								
授業概要	産業保健・産業看護の内外の歴史を振り返り、現在の社会状況や社会的要請を分析しつつ、将来に向けて、産業看護職としての普遍的な役割を明らかにする。また産業看護の定義、理論・モデル、産業看護職の職務の特性など、産業看護を推進するための知識を理解し、産業看護職としての支援のあり方、必要なコンピテンシーや技術、情報の取り扱い等について考究する。さらに、あるべき姿と現実のギャップを埋めるための課題を明確にし、自らの考えを構築できるようにする。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.産業保健・産業看護について、的確なアセスメント、計画、実施、評価ができる。 2.産業保健・産業看護のための社会資源の有効活用、資源化、開発ができる。 3.産業保健・産業看護の役割の発展について、自らの考えを構築できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	企業、健康保険組合、行政での産業看護職の経験を活かし、理論と実践の融合を行う。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	産業保健・産業看護の歴史（新谷）							
	内容	国内外の歴史							
第2回	テーマ	産業保健・産業看護の現状、展望（新谷）							
	内容	わが国の産業保健・産業看護							
第3回	テーマ	産業保健・産業看護の展開のためのシステム、ネットワークづくり（新谷）							
	内容	職場における衛生管理システム							
第4回	テーマ	産業保健・産業看護の展開のためのシステム、ネットワークづくり（新谷）							
	内容	サポーティングシステム、行政のしくみと連携							
第5回	テーマ	職場におけるヘルスプロモーション（新谷）							
	内容	WHOのヘルスプロモーションと我が国のTHPプラン、職場での健康づくりプログラムの開発と評価方法							
第6回	テーマ	職業性疾患・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割（新谷）							
	内容	主な職業性疾患の予防対策と産業看護職の役割							
第7回	テーマ	職業性疾患・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割（新谷）							
	内容	作業関連疾患の予防対策と産業看護職の役割							
第8回	テーマ	メンタルヘルスケアと産業看護職の役割（新谷）							
	内容	職場におけるメンタルヘルスの現状と対策							
第9回	テーマ	メンタルヘルスケアと産業看護職の役割（新谷）							
	内容	メンタルヘルスケアにおける産業看護職の役割							
第10回	テーマ	労働災害防止対策における産業看護職の役割（新谷）							
	内容	労働災害の現状とその原因、予防対策と産業看護職の役割							
第11回	テーマ	産業看護職の倫理（新谷）							
	内容	ICOHの倫理コード、日本産業衛生学会の倫理規程							
第12回	テーマ	産業看護管理（新谷）							
	内容	看護管理・産業看護管理の考え方、産業保健チームでの看護職の役割の明確化、産業看護業務の計画と評価							
第13回	テーマ	産業看護教育（新谷）							
	内容	産業看護教育の現状と課題について討議							
第14回	テーマ	地域保健師の現任教育（麻生）							
	内容	行政保健師キャリアラダーの概要と現任教育の現状と課題について討議							
第15回	テーマ	国際的にみた産業保健・産業看護活動（新谷）							
	内容	ILOとWHO・ICOH							
教科書名	特になし								
参考図書	適宜提示する								
評価方法	プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート40%								
履修について	なし								
事前・事後学習等	提示した資料を事前に読んでおくこと								
キーワード	ディスカッション／プレゼンテーション／アクティブラーニング								
備考	課題に対するフィードバック：授業時間内にディスカッションを通して検討する								

科目名	産業看護学特論					担当教員名	新谷奈苗、麻生保子		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	産業保健・産業看護を展開するためのシステムについて理解し、より良いシステム形成のあり方について概説する。								
授業概要	産業保健・産業看護の内外の歴史を振り返り、現在の社会状況や社会的要請を分析しつつ、将来に向けて、産業看護職としての普遍的な役割を明らかにする。また産業看護の定義、理論・モデル、産業看護職の職務の特性など、産業看護を推進するための知識を理解し、産業看護職としての支援のあり方、必要なコンピテンシーや技術、情報の取り扱い等について考究する。さらに、あるべき姿と現実のギャップを埋めるための課題を明確にし、自らの考えを構築できるようにする。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) オムニバス方式	
到達目標	1.産業保健・産業看護について、的確なアセスメント、計画、実施、評価ができる。 2.産業保健・産業看護のための社会資源の有効活用、資源化、開発ができる。 3.産業保健・産業看護の役割の発展について、自らの考えを構築できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	企業、健康保険組合、行政での産業看護職の経験を活かし、理論と実践の融合を行う。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	産業保健・産業看護の歴史（新谷）							
	内容	国内外の歴史							
第2回	テーマ	産業保健・産業看護の現状、展望（新谷）							
	内容	わが国の産業保健・産業看護							
第3回	テーマ	産業保健・産業看護の展開のためのシステム、ネットワークづくり（新谷）							
	内容	職場における衛生管理システム							
第4回	テーマ	産業保健・産業看護の展開のためのシステム、ネットワークづくり（新谷）							
	内容	サポーティングシステム、行政のしくみと連携							
第5回	テーマ	職場におけるヘルスプロモーション（新谷）							
	内容	WHOのヘルスプロモーションと我が国のTHPプラン、職場での健康づくりプログラムの開発と評価方法							
第6回	テーマ	職業性疾病・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割（新谷）							
	内容	主な職業性疾病の予防対策と産業看護職の役割							
第7回	テーマ	職業性疾病・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割（新谷）							
	内容	作業関連疾患の予防対策と産業看護職の役割							
第8回	テーマ	メンタルヘルスケアと産業看護職の役割（新谷）							
	内容	職場におけるメンタルヘルスの現状と対策							
第9回	テーマ	メンタルヘルスケアと産業看護職の役割（新谷）							
	内容	メンタルヘルスケアにおける産業看護職の役割							
第10回	テーマ	労働災害防止対策における産業看護職の役割（新谷）							
	内容	労働災害の現状とその原因、予防対策と産業看護職の役割							
第11回	テーマ	産業看護職の倫理（新谷）							
	内容	ICOHの倫理コード、日本産業衛生学会の倫理規程							
第12回	テーマ	産業看護管理（新谷）							
	内容	看護管理・産業看護管理の考え方、産業保健チームでの看護職の役割の明確化、産業看護業務の計画と評価							
第13回	テーマ	産業看護教育（新谷）							
	内容	産業看護教育の現状と課題							
第14回	テーマ	地域保健師の現任教育（麻生）							
	内容	行政保健師キャリアラダーの概要と現任教育の現状と課題							
第15回	テーマ	国際的にみた産業保健・産業看護活動（新谷）							
	内容	ILOとWHO・ICOH							
教科書名	特になし								
参考図書	適宜提示する								
評価方法	プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、レポート40%								
履修について	なし								
事前・事後学習等	提示した資料を事前に読んでおくこと								
キーワード	ディスカッション／プレゼンテーション／アクティブラーニング								
備考	課題に対するフィードバック:授業時間内にディスカッションを通して検討する								

科目名	産業看護学演習					担当教員名	新谷奈苗、丸上輝剛		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	産業保健・産業看護活動を推進するうえでのさまざまな知識や技術をディスカッションを通して身につける。これらを通し地域看護における論理的思考を醸成する。								
授業概要	産業保健・産業看護活動を推進するうえでのさまざまな知識、具体的には労働の生理的・心理的負担、人間工学の考え方と実際の適用方法、職業がん、有機溶剤中毒などの職業性疾病、高血圧、虚血性心疾患などのいわゆる作業関連疾患の成因と予防対策などについて、事例・論文の検討、クリティークを通して、特論で学んだ知識が研究テーマの絞り込みに活かせるようにする。加えて、産業保健・産業看護活動にとって特に重要な、コミュニケーション技術、コーディネーション技術、保健面接技術、ケースワークの力を、ロールプレイや議論を通して身につける。さらに、保健医療情報の特徴と種類、業務分析に必要な情報処理技術とプライバシーの保護を含めた情報管理技術を修得する。授業は受講生が主体となった事例や論文のクリティーク、ディスカッションを中心に実施する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式・共同(一部)	
到達目標	1.産業保健・産業看護活動を展開するうえで基礎となるさまざまな知識を習得できる。 2.授業内容のテーマについて、文献・資料を収集し、プレゼンテーションできる。 3.文献等のクリティーク・ディスカッションによって、得た知識・技能を自己の活動に応用することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	企業、健康保険組合、行政での産業看護職の経験を活かし、理論と実践の融合を行う。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	産業活動と環境保全 (新谷)							
	内容	環境破壊とその対策、公害病							
第2回	テーマ	労働の生理的負担 (新谷)							
	内容	労働による生理機能の変化、労働とエネルギー代謝、静的労働と動的労働、労働と環境条件							
第3回	テーマ	労働の心理的負担 (新谷)							
	内容	心理的負担の特徴、労働者の心理的負担に関与する要因、心理的負担の調査方法							
第4回	テーマ	産業疲労 (新谷)							
	内容	疲労の概念、疲労の測定方法、作業特性別の疲労調査事例、疲労防止対策、労働負担と関連疾患							
第5回	テーマ	職場の人間工学 (新谷)							
	内容	産業場面の人間工学的アプローチ、働きやすさ・にくさと人間工学							
第6回	テーマ	職場の人間工学 (新谷)							
	内容	作業編成の人間工学、人間工学からみた作業改善のすすめ方							
第7回	テーマ	作業環境条件の整備 (新谷)							
	内容	作業環境測定の方法と評価、有害要因の制御、快適職場づくり							
第8回	テーマ	労働と健康障害 (新谷)							
	内容	物理的要因による健康障害							
第9回	テーマ	労働と健康障害 (新谷)							
	内容	化学的要因による健康障害							
第10回	テーマ	健康教育技術 (新谷)							
	内容	健康教育の基礎理論と行動変容							
第11回	テーマ	保健面接技術 (新谷)							
	内容	コミュニケーション技術・コーディネーション技術のディスカッション							
第12回	テーマ	保健面接技術 (新谷)							
	内容	コミュニケーション技術・コーディネーション技術のディスカッション							
第13回	テーマ	保健医療情報の活用 (新谷、丸上)							
	内容	情報管理技術のディスカッション							
第14回	テーマ	保健医療情報の活用 (新谷、丸上)							
	内容	情報活用技術のディスカッション							
第15回	テーマ	ケースワーク技術 (新谷)							
	内容	ケースワークの実際							
教科書名	特になし								
参考図書	必要時提示する								
評価方法	授業時の取り組み状況60%、レポート40%								
履修について	特になし								
事前・事後学習等	事前の準備を行っておくこと								
キーワード	ディスカッション／プレゼンテーション／アクティブラーニング								
備考	課題に対するフィードバック:授業時間内にディスカッションを通して検討する								

科目名	産業看護学演習					担当教員名	新谷奈苗、丸上輝剛		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	産業保健・産業看護活動を推進するうえでのさまざまな知識や技術をディスカッションを通して身につける。								
授業概要	産業保健・産業看護活動を推進するうえでのさまざまな知識、具体的には労働の生理的・心理的負担、人間工学の考え方と実際の適用方法、職業がん、有機溶剤中毒などの職業性疾患、高血圧、虚血性心疾患などのいわゆる作業関連疾患の成因と予防対策などについて、事例・論文の検討、クリティークを通して、特論で学んだ知識が研究テーマの絞り込みに活かせるようにする。加えて、産業保健・産業看護活動にとって特に重要な、コミュニケーション技術、コーディネーション技術、保健面接技術、ケースワークの力を、ロールプレイや議論を通して身につける。さらに、保健医療情報の特徴と種類、業務分析に必要な情報処理技術とプライバシーの保護を含めた情報管理技術を修得する。授業は受講生が主体となった事例や論文のクリティーク、ディスカッションを中心に実施する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
			オムニバス方式・共同(一部)						
到達目標	1.産業保健・産業看護活動を展開するうえで基礎となるさまざまな知識を習得できる。 2.授業内容のテーマについて、文献・資料を収集し、プレゼンテーションできる。 3.文献等のクリティーク・ディスカッションによって、得た知識・技能を自己の活動に応用することができる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	企業、健康保険組合、行政での産業看護職の経験を活かし、理論と実践の融合を行う。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	産業活動と環境保全 (新谷)							
	内容	環境破壊とその対策、公害病							
第2回	テーマ	労働の生理的負担 (新谷)							
	内容	労働による生理機能の変化、労働とエネルギー代謝、静的労働と動的労働、労働と環境条件							
第3回	テーマ	労働の心理的負担 (新谷)							
	内容	心理的負担の特徴、労働者の心理的負担に関与する要因、心理的負担の調査方法							
第4回	テーマ	産業疲労 (新谷)							
	内容	疲労の概念、疲労の測定方法、作業特性別の疲労調査事例、疲労防止対策、労働負担と関連疾患							
第5回	テーマ	職場の人間工学 (新谷)							
	内容	産業場面の人間工学的アプローチ、働きやすさ・にくさと人間工学							
第6回	テーマ	職場の人間工学 (新谷)							
	内容	作業編成の人間工学、人間工学からみた作業改善のすすめ方							
第7回	テーマ	作業環境条件の整備 (新谷)							
	内容	作業環境測定の方法と評価、有害要因の制御、快適職場づくり							
第8回	テーマ	労働と健康障害 (新谷)							
	内容	物理的要因による健康障害							
第9回	テーマ	労働と健康障害 (新谷)							
	内容	化学的要因による健康障害							
第10回	テーマ	健康教育技術 (新谷)							
	内容	健康教育の基礎理論と行動変容							
第11回	テーマ	保健面接技術 (新谷)							
	内容	コミュニケーション技術・コーディネーション技術							
第12回	テーマ	保健面接技術 (新谷)							
	内容	コミュニケーション技術・コーディネーション技術							
第13回	テーマ	保健医療情報の活用 (新谷、丸上)							
	内容	情報管理技術							
第14回	テーマ	保健医療情報の活用 (新谷、丸上)							
	内容	情報活用技術							
第15回	テーマ	ケースワーク技術 (新谷)							
	内容	ケースワークの実際							
教科書名	特になし								
参考図書	必要時提示する								
評価方法	授業時の取り組み状況60%、レポート40%								
履修について	特になし								
事前・事後学習等	事前の準備を行っておくこと								
キーワード	ディスカッション／プレゼンテーション／アクティブラーニング								
備考	課題に対するフィードバック:授業時間内にディスカッションを通して検討する								

科目名	地域看護学特論					担当教員名	麻生保子、新谷奈苗		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	地域看護に関する概念、理論、活動方法および地域看護管理についてディスカッションを行う。これらを通し地域看護における論理的思考を育み、実践への応用を探求する。								
授業概要	すべての人々が、健康障害の有無にかかわらず、その人が望む生活を維持向上できるように、病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための学際的探究方法を修得する。また、コミュニティ(地域)そのものも看護の対象と捉え、健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求するとともに、実践への適応について検討する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.地域看護の概念や活動の基盤となる倫理について説明できる。 2.様々な地域看護実践に適応する地域看護理論について考究する。 3.地域看護における研究の動向を基に、QOLの高い生活の営みを支援するための学際的支援方法を探求する。 4.成熟したヘルスケアシステムに資する地域看護管理のあり方を考究する。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	神経難病、腎疾患等地域連携病棟看護師、保健所、保健センター、障害保健福祉センター等に保健師として勤務の他、国立保健医療科学院及び厚生労働省健康局(併任)にて現任教育及び健康危機管理対応を担当した。								
学位授与方針	専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 高い倫理観をもち、多様な倫理的課題に対応できる能力。 ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	地域看護学の概念と倫理 (麻生)							
	内容	地域看護学の対象、地域看護の基盤となる倫理、活動実践における倫理的課題と展望							
第2回	テーマ	地域看護の歴史と発展 (麻生)							
	内容	我が国及び諸外国における地域看護の歴史と発展について概説し、今後の方向性について討議を行う							
第3回	テーマ	地域看護活動を支える理論 (麻生)							
	内容	地域看護活動の基となる理論や地域看護活動に活用可能なロジカルフレームワークについて概説し、地域看護実践への効果的活用を検討する							
第4回	テーマ	個人、家族、集団、地域を看護するプロセス (麻生)							
	内容	看護の対象としての個人、家族、集団、地域をアセスメントし、ケアをする方法について検討をする							
第5回	テーマ	地域看護活動の展開方法①地域診断 (麻生)							
	内容	代表的な地域診断方法を概説するとともに、受講生の実践課題に適した方法を選択し、地域診断を実施する							
第6回	テーマ	地域看護活動の展開方法②計画策定と実施 (麻生)							
	内容	地域・組織診断を基に地域看護実践における課題を解決する方法について計画策定し、実施方法を検討する							
第7回	テーマ	地域看護活動の展開方法③評価 (麻生)							
	内容	地域アセスメントに基づき計画・実施する地域看護活動の評価について検討する							
第8回	テーマ	地域看護の実際(母子保健、児童、学童、青年期への支援) (麻生)							
	内容	地域看護における母子保健、児童、学童期、青年期への実際について検討する							
第9回	テーマ	行動科学を応用した保健指導 (麻生)							
	内容	保健指導に活用可能な行動科学理論を概観し、看護実践場面での応用について検討する							
第10回	テーマ	地域看護活動の実際(産業看護) (新谷)							
	内容	地域で生活する人々の働くことに対する支援と産業との連携							
第11回	テーマ	地域看護活動の実際(健康危機管理) (麻生)							
	内容	感染症対応を含む健康危機管理体制整備に関する地域看護活動について							
第12回	テーマ	地域看護活動の国際比較 (麻生)							
	内容	諸外国と我が国の地域看護活動の現状比較と課題について検討する							
第13回	テーマ	地域看護分野における現任教育 (麻生)							
	内容	行政分野の看護職キャリアラダーと現任教育の現状と課題、地域看護職における生涯教育							
第14回	テーマ	地域看護管理の実際 (麻生)							
	内容	組織運営管理、人材育成、地域アセスメントに基づくヘルスケアシステムの醸成等、地域看護管理について検討する							
第15回	テーマ	まとめ (麻生)							
	内容	これまでを振り返り、受講生が地域看護活動を行う上での課題について討議を行い、実践への適応について検討する							
教科書名	特に定めない								
参考図書	特に定めない。講義の中で適宜紹介します								
評価方法	資料準備30%、プレゼンテーションおよびディスカッション30%、レポート40%								
履修について	地域看護学演習、特別研究(地域看護学)を履修する人は必ず本科目を受講して下さい								
事前・事後学習等	<ul style="list-style-type: none"> ・次回授業部分を予習しておくこと。授業終了後は、授業中の疑問点をまとめ、次回授業までに解決しておくこと ・受講生の課題に基づき、授業内でパワーポイントにまとめ発表できるように準備をする。授業終了後に討議を踏まえ、今後の方向性について、修正を加え提出する ・事前事後の学習には各回概ね1.5時間を要する 								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/PBL								
備考	なし								

科目名	地域看護学特論					担当教員名	麻生保子、新谷奈苗		
履修学年	1・2年	期間	前期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	講義
テーマ	地域看護に関する概念、理論、活動方法および地域看護管理について理解および探求し、実践に応用する。								
授業概要	すべての人々が、健康障害の有無にかかわらず、その人が望む生活を維持向上できるように、病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための学際的探究方法を修得する。また、コミュニティ(地域)そのものも看護の対象と捉え、健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求するとともに、実践への適応について検討する。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同)	
								オムニバス方式	
到達目標	1.地域看護の概念や特性について説明できる。 2.地域看護実践において活用する理論等について説明できる。 3.地域看護の展開方法について説明できる。 4.地域看護管理の概要を説明できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	神経難病、腎疾患等地域連携病棟看護師、保健所、保健センター、障害保健福祉センター等に保健師として勤務の他、国立保健医療科学院及び厚生労働省健康局(併任)にて現任教育及び健康危機管理対応を担当した。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 ケアの対象者並びに多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	地域看護学の概要 (麻生)							
	内容	オリエンテーションと授業の進め方、地域看護学の概要について説明する							
第2回	テーマ	地域看護の歴史と発展 (麻生)							
	内容	我が国及び諸外国における地域看護の歴史と発展について概説し、今後の方向性について討議を行う							
第3回	テーマ	地域看護活動を支える理論 (麻生)							
	内容	地域看護活動の基となる理論や地域看護活動に活用可能なロジカルフレームワークについて概説し、地域看護実践への効果的活用を検討する							
第4回	テーマ	個人、家族、集団、地域を看護するプロセス (麻生)							
	内容	看護の対象としての個人、家族、集団、地域をアセスメントし、ケアをする方法について検討をする							
第5回	テーマ	地域看護活動の展開方法①地域診断 (麻生)							
	内容	代表的な地域診断方法を概説するとともに、受講生の実践課題に適した方法を選択し、地域診断を実施する							
第6回	テーマ	地域看護活動の展開方法②計画策定と実施 (麻生)							
	内容	地域・組織診断を基に地域看護実践における課題を解決する方法について計画策定し、実施方法を検討する							
第7回	テーマ	地域看護活動の展開方法③評価 (麻生)							
	内容	地域アセスメントに基づき計画・実施する地域看護活動の評価について検討する							
第8回	テーマ	地域看護の実践(母子保健、児童、学童、青年期への支援) (麻生)							
	内容	地域看護における母子保健、児童、学童期、青年期への実際について検討する							
第9回	テーマ	行動科学を応用した保健指導 (麻生)							
	内容	保健指導に活用可能な行動科学理論を概観し、看護実践場面での応用について検討する							
第10回	テーマ	地域看護活動の実際(産業看護) (新谷)							
	内容	地域で生活する人々の働くことに対する支援と産業との連携							
第11回	テーマ	地域看護活動の実際(健康危機管理) (麻生)							
	内容	感染症対応を含む健康危機管理体制整備に関する地域看護活動について							
第12回	テーマ	地域看護活動の国際比較 (麻生)							
	内容	諸外国と我が国の地域看護活動の現状比較と課題について検討する							
第13回	テーマ	地域看護分野における現任教育 (麻生)							
	内容	行政分野の看護職キャリアラダーと現任教育の現状と課題、地域看護職における生涯教育							
第14回	テーマ	地域看護管理の実際 (麻生)							
	内容	組織運営管理、人材育成、地域アセスメントに基づくヘルスケアシステムの醸成等、地域看護管理について検討する							
第15回	テーマ	まとめ (麻生)							
	内容	これまでを振り返り、受講生が地域看護活動を行う上での課題について討議を行い、実践への適応について検討する							
教科書名	特に定めない								
参考図書	特に定めない。講義の中で適宜紹介します								
評価方法	資料準備30%、プレゼンテーションおよびディスカッション30%、レポート40%								
履修について	地域看護学演習、特別研究(地域看護学)を履修する人は必ず本科目を受講して下さい								
事前・事後学習等	・次回授業部分を予習しておくこと。授業終了後は、授業中の疑問点をまとめ、次回授業までに解決しておくこと ・受講生の課題に基づき、授業内でパワーポイントにまとめ発表できるように準備をする。授業終了後に討議を踏まえ、今後の方向性について、修正を加え提出する ・事前事後の学習には各回概ね1.5時間を要する								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/PBL								
備考	なし								

科目名	地域看護学演習					担当教員名	麻生保子、平山香代子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	地域看護学に関するさまざまな課題に焦点をあて、文献検討を行うとともに、自己の研究課題を焦点化する。次に、研究課題に沿った研究手法について検討し、多角的に課題解決方法を検討する。これらのディスカッションを通じて論理的思考を育む。								
授業概要	本授業はゼミナール形式で展開する。各自で取り上げた研究テーマにおいて具体的な研究テーマの絞りこみや研究方法を検討する。具体的には、特論で学んだ課題解決手法等をもとに受講生と共に最適な課題解決方法を検討する。さらに、研究成果の地域看護学分野における活用可能性について現場の活動および関連文献を用いてディスカッションを行う。これらを通じて、地域看護における理論的知識と実践との往還、課題に対する柔軟な思考能力と深い洞察力、主体的な実践能力の育成を目指す。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) 共同	
到達目標	1.自己の関心領域に関連する文献クリティークができる。 2.文献検討をもとに研究課題を明確にし、研究目的、研究方法を検討し、その信頼性、妥当性を説明できる。 3.研究計画書を作成できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	神経難病、腎疾患等地域連携を行う病棟看護師、保健所、保健センター、障害保健福祉センター等に保健師として勤務の他、国立保健医療科学院及び厚生労働省健康局(併任)にて現任教育及び健康危機管理対応を担当した。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。ケアの対象者および多職種の持つ多様な価値観や背景を理解し、コミュニケーション能力を活かして、リーダーシップを発揮し、連携・協働を推進する能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	科目概説							
	内容	本科目の概要、授業目標を説明できる							
第2回	テーマ	文献検討①							
	内容	地域看護実践に関連した課題に関心領域から設定し、文献を検討できる							
第3回	テーマ	文献検討②							
	内容	地域看護実践に関連した課題に関心領域から設定し、文献を検討できる							
第4回	テーマ	文献検討③							
	内容	地域看護実践に関連した課題に関心領域から設定し、文献を検討できる							
第5回	テーマ	文献クリティーク①							
	内容	課題に関連する文献をクリティークできる							
第6回	テーマ	文献クリティーク②							
	内容	課題に関連する文献をクリティークできる							
第7回	テーマ	文献クリティーク③							
	内容	クリティークした文献を整理し、課題を明確にできる							
第8回	テーマ	文献クリティーク④							
	内容	明確となった課題から自己の研究課題を再構築できる							
第9回	テーマ	フィールドワーク①							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、情報収集を行う							
第10回	テーマ	フィールドワーク②							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、情報収集を行う							
第11回	テーマ	フィールドワーク③							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、研究課題との適合性を検討する							
第12回	テーマ	フィールドワーク④							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、結果をプレゼンテーションできる							
第13回	テーマ	自己の課題の明確化と研究方法の検討							
	内容	自己の課題を明確化するとともに、研究目的、研究方法を検討できる							
第14回	テーマ	地域看護学研究における倫理的配慮							
	内容	倫理審査の必要性と必要な書類の検討							
第15回	テーマ	研究計画書							
	内容	研究計画書の立案							
教科書名	適宜紹介する								
参考図書	適宜紹介する								
評価方法	資料作成30%、プレゼンテーションおよびディスカッション40%、課題レポート30%として評価する								
履修について	履修には地域看護学特論が必須です。また、特別研究(地域看護学)を履修する人は必ず本科目を受講して下さい								
事前・事後学習等	文献検索を行い、文献を精読して授業に臨む事、授業終了後は、授業中の疑問点をまとめ、次回授業までに解決しておくこと 事前事後の学習には各回概ね1.5時間を要する								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/フィールドワーク/PBL								
備考	なし								

科目名	地域看護学演習					担当教員名	麻生保子、平山香代子		
履修学年	1年	期間	後期	必・選の別	選択	単位数	2単位	授業形式	演習
テーマ	地域看護学に関するさまざまな課題に焦点をあて、文献検討とともに、実践の場における参加観察やインタビューなど多様な手法を用いて多角的に検討する。それらを通じて、看護実践の中から自己の研究課題を焦点化し研究方法について検討する。								
授業概要	本授業はゼミナール形式で展開する。各自で取り上げた研究テーマにおいて具体的な研究テーマの絞りこみや研究方法を検討する。具体的には、特論で学んだ課題解決手法等をもとに受講生と共に最適な課題解決方法を検討する。さらに、研究成果の地域看護学分野における活用可能性について現場の活動および関連文献を用いてディスカッションを行う。これらを通じて、地域看護における理論的知識と実践との往還、課題に対する柔軟な思考能力と深い洞察力、主体的な実践能力の育成を目指す。						授業形態	(オムニバス・共同・一部共同) 共同	
到達目標	1.自己の関心領域に関連する先行研究や学際的文献をデータベースから検索できる。 2.検索した研究論文のクリティークができる。 3.自己の関心領域に関する文献レビューをまとめ、記述することができる。 4.文献検討をもとに研究課題を明確にし、研究目的、研究方法について検討できる。								
実務経験の有無	有								
実務経験の内容	神経難病、腎疾患等地域連携を行う病棟看護師、保健所、保健センター、障害保健福祉センター等に保健師として勤務の他、国立保健医療科学院及び厚生労働省健康局(併任)にて現任教育及び健康危機管理対応を担当した。								
学位授与方針	看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方略を探求する能力。 専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力。 看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力。								
授業計画									
第1回	テーマ	科目概説							
	内容	本科目の概要、授業目標を説明できる							
第2回	テーマ	文献検討①							
	内容	地域看護実践に関連した課題に関心領域から設定し、文献を検討できる							
第3回	テーマ	文献検討②							
	内容	地域看護実践に関連した課題に関心領域から設定し、文献を検討できる							
第4回	テーマ	文献検討③							
	内容	地域看護実践に関連した課題に関心領域から設定し、文献を検討できる							
第5回	テーマ	文献クリティーク①							
	内容	課題に関連する文献をクリティークできる							
第6回	テーマ	文献クリティーク②							
	内容	課題に関連する文献をクリティークできる							
第7回	テーマ	文献クリティーク③							
	内容	クリティークした文献を整理し、課題を明確にできる							
第8回	テーマ	文献クリティーク④							
	内容	明確となった課題から自己の研究課題を再構築できる							
第9回	テーマ	フィールドワーク①							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、情報収集を行う							
第10回	テーマ	フィールドワーク②							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、情報収集を行う							
第11回	テーマ	フィールドワーク③							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、研究課題との適合性を検討する							
第12回	テーマ	フィールドワーク④							
	内容	課題に関連するフィールドでフィールドワークを行い、結果をプレゼンテーションできる							
第13回	テーマ	自己の課題の明確化と研究方法の検討①							
	内容	自己の課題を明確化するとともに、研究目的、研究方法を検討できる							
第14回	テーマ	自己の課題の明確化と研究方法の検討②							
	内容	自己の課題を明確化するとともに、研究目的、研究方法を検討できる							
第15回	テーマ	自己の課題の明確化と研究方法の検討③							
	内容	自己の課題を明確化するとともに、研究目的、研究方法を検討できる							
教科書名	適宜紹介する								
参考図書	適宜紹介する								
評価方法	資料作成30%、プレゼンテーションおよびディスカッション40%、課題レポート30%として評価する								
履修について	履修には地域看護学特論が必須です。また、特別研究(地域看護学)を履修する人は必ず本科目を受講して下さい								
事前・事後学習等	文献検索を行い、文献を精読して授業に臨む事、授業終了後は、授業中の疑問点をまとめ、次回授業までに解決しておくこと 事前事後の学習には各回概ね1.5時間を要する								
キーワード	双方向授業/対話型授業/アクティブラーニング/ディスカッション/プレゼンテーション/フィールドワーク/PBL								
備考	なし								